

平安京右京四条二坊十一町・
西堀川小路跡、御土居跡

2015年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京四条二坊十一町・
西堀川小路跡、御土居跡

2015年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、共同住宅建設工事に伴う平安京跡・御土居跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

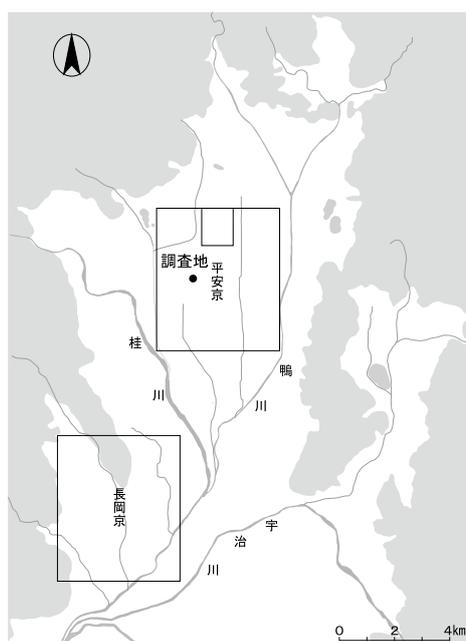
平成27年9月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京跡、御土居跡（文化財保護課番号 14 H 440）
- 2 調査所在地 京都市中京区壬生淵田町8他
- 3 委 託 者 京阪電鉄不動産株式会社 代表取締役 三浦達也
- 4 調査期間 2015年1月21日～2015年4月30日
- 5 調査面積 576㎡（1区467㎡、2区42㎡、3区67㎡）
- 6 調査担当者 布川豊治・持田 透
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「山ノ内」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 1区は1から、2区は201から、3区は301から通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 布川豊治・持田 透
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員および資料業務職員があたった。

(調査地点図)



目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	4
2. 位置と環境	5
(1) 位置と環境	5
(2) 既往の調査	5
3. 遺 構	7
(1) 1区	7
1) 層序	7
2) 遺構の概要	7
3) 遺構	7
(2) 2区	13
1) 層序	13
2) 遺構の概要	13
3) 遺構	15
(3) 3区	17
1) 層序	17
2) 遺構	17
4. 遺 物	18
(1) 遺物の概要	18
(2) 土器類	18
(3) 瓦類	20
(4) その他の遺物	21
5. ま と め	22
(1) 遺構と調査地の変遷	22
(2) 西堀川小路について	22

図 版 目 次

図版 1	遺構	1 区南壁断面オルソ写真 (1 : 50)
図版 2	遺構	1 区南壁断面図 1 (1 : 50)
図版 3	遺構	1 区南壁断面図 2 (1 : 50)
図版 4	遺構	1 区東壁断面図 1 (1 : 50)
図版 5	遺構	1 区東壁断面図 2 (1 : 50)
図版 6	遺構	1 区 B - B' (X = - 110,348 セクション) 断面オルソ写真・断面図 1 (1 : 50)
図版 7	遺構	1 区 B - B' (X = - 110,348 セクション) 断面図 2 (1 : 50)
図版 8	遺構	1 区 A - A' (中央セクション) 断面図 (1 : 50)
図版 9	遺構	1 1 区北半 全景 (南から) 2 1 区南半 全景 (北から)
図版 10	遺構	1 1 区北半 溝 22 (西堀川) 杭列 (北東から) 2 1 区南半 溝 22 (西堀川) 杭列と路面 (北東から)
図版 11	遺構	1 1 区南半 溝 23 (西側溝) 下部 (北から) 2 1 区南半 東拡張部 杭列 (北西から) 3 1 区南半 溝 31 (西南西から) 4 1 区南半 堤 20 (北から)
図版 12	遺構	1 2 区全景 (北から) 2 3 区全景 (北から)
図版 13	遺物	出土遺物

挿 図 目 次

図 1	調査地と周辺調査位置図 (1 : 5,000)	1
図 2	調査区配置図 (1 : 1,000)	2
図 3	1 区調査前全景 (北東から)	2
図 4	1 区作業風景 (北東から)	2
図 5	2・3 区調査前全景 (東から)	2
図 6	2・3 区作業風景 (東から)	2
図 7	平成 26 年度保護課調査区北壁・南壁断面図 (1 : 100)	3

図8	1区遺構平面図（1：150）	8
図9	溝22杭列実測図（1：100）	10
図10	溝31実測図（1：50）	11
図11	堤20実測図（1：100）	12
図12	2区東壁・南壁・セクション断面図（1：50）	14
図13	2区遺構平面図（1：50）	15
図14	3区東壁・北壁断面図（1：50）	16
図15	3区遺構平面図（1：100）	17
図16	出土土器実測図1（1：4）	19
図17	出土土器実測図2（1：4）	20
図18	軒瓦拓影・実測図（1：4）	21
図19	木製品実測図（1：4）	21
図20	遺構変遷図（1：500）	23

表 目 次

表1	既往調査一覧表	5
表2	遺構概要表	7
表3	遺物概要表	18
表4	西堀川小路既往調査成果一覧表	24

平安京右京四條二坊十一町・西堀川小路跡、御土居跡

1. 調査経過

(1) 調査に至る経緯

調査地は京都市中京区壬生淵田町8他に所在し、平安時代の平安京右京四條二坊十一町東端とその東側の西堀川小路、そして安土桃山時代の御土居土塁と堀にあたる。

当地において集合住宅の建築が計画されたため、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「保護課」という）によって、平成26年9月に本調査に先立って、御土居の遺存範囲を確認するための調査（以下「平成26年度保護課調査」という）が実施された¹⁾。その結果、土塁盛土とそれ以前の河川堆積、西堀川及び西堀川小路西側溝などが良好に遺存していることが明らかになった。その成果を受け、調査範囲を広げ、御土居構築以前の遺構検出と記録作成を目的とする発掘調査の実施が指導された。調査は公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受け、実施することとなった。

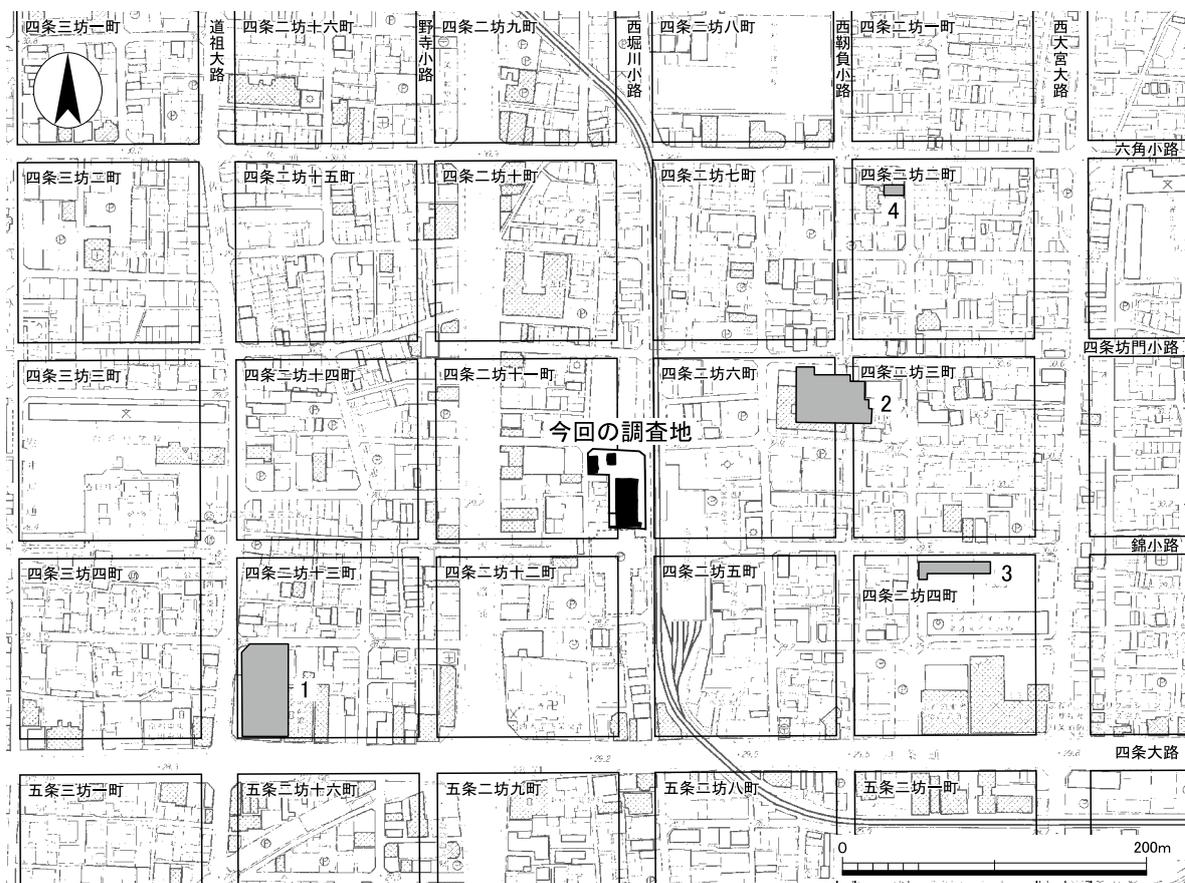


図1 調査地と周辺調査位置図（1：5,000）

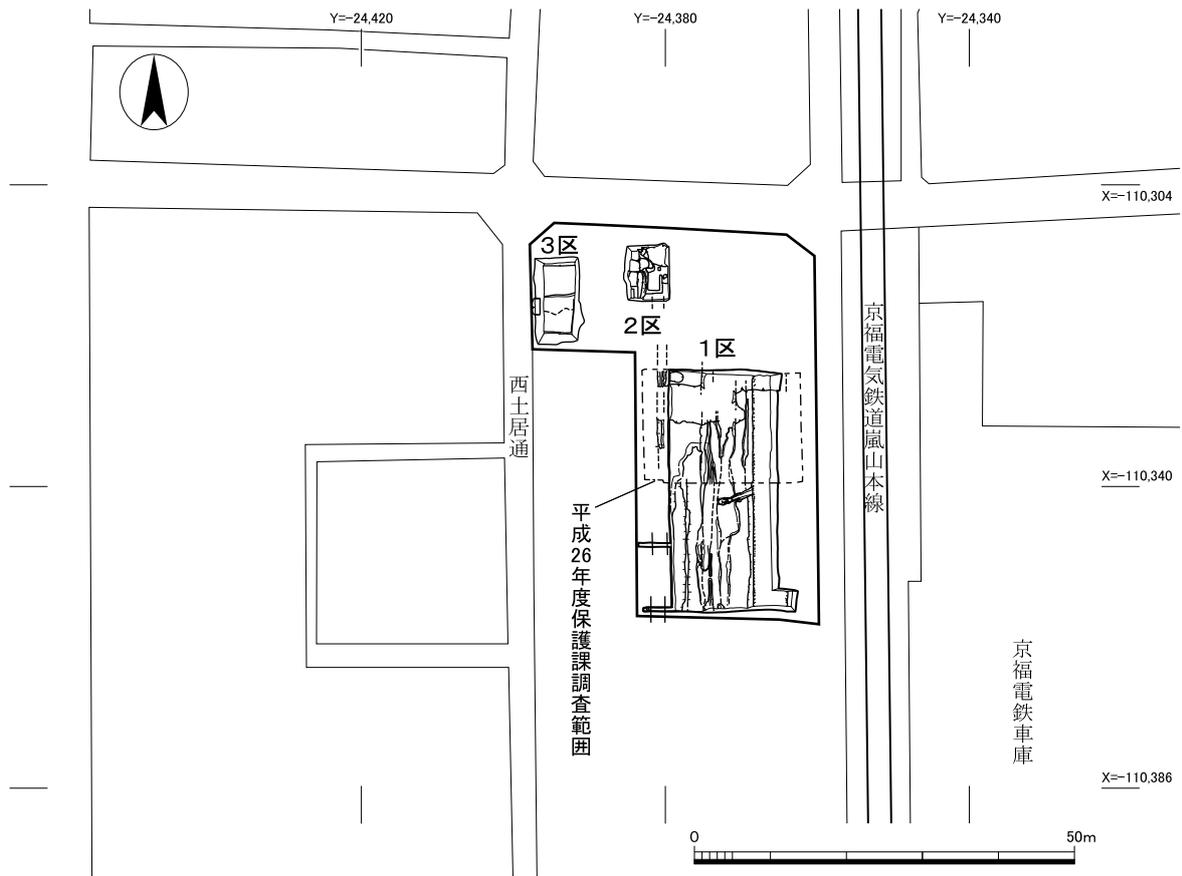


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)



図3 1区調査前全景 (北東から)



図4 1区作業風景 (北東から)

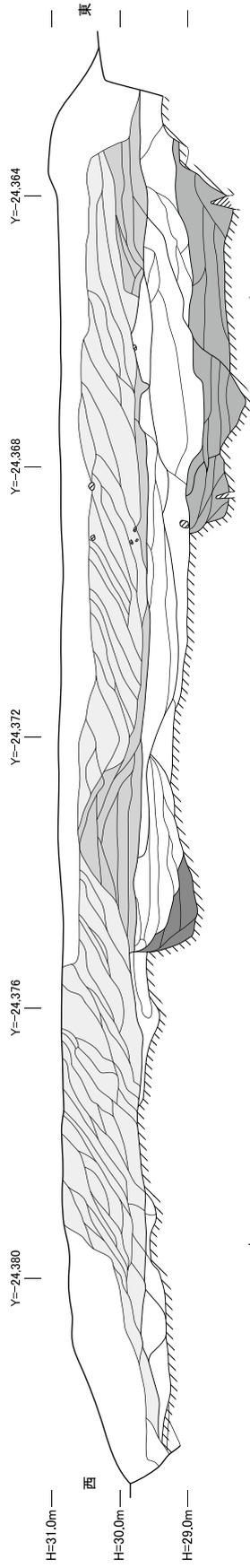


図5 2・3区調査前全景 (東から)



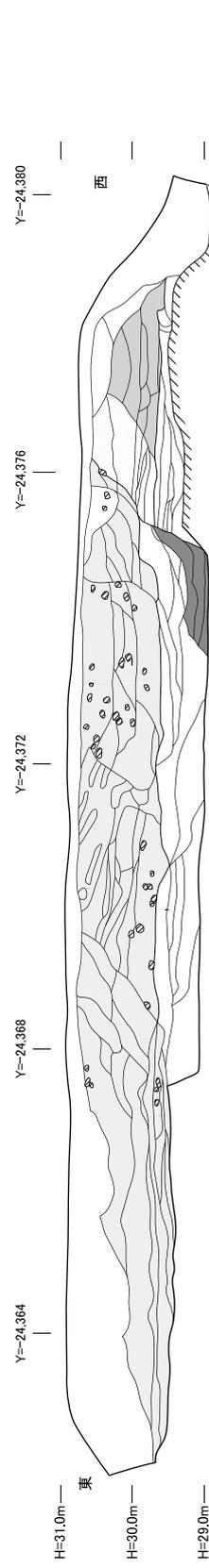
図6 2・3区作業風景 (東から)

保護課調査区北壁



今回調査の1区北壁範囲

保護課調査区南壁



今回調査の1区中央セクション範囲



- 土塁盛土
- 土塁基礎(核)
- 河川堆積層
- 西堀川
- 西側溝

図7 平成26年度保護課調査区北壁・南壁断面図(1:100)

※鈴木久史「平安京右京四条二坊十一町・壬生遺跡・御土居跡(13H408)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成26年度』図17・18を調整・加筆した。

(2) 調査の経過

調査は保護課の指導の下に平成27年1月21日から開始した。調査地内の北側は住宅とガレージが解体されずに残っていたため、調査区は保護課の当初指導より縮小せざるを得ず、調査地南側から調査を開始することとなった。南側の調査区は、南北約32m、東西約14mを設定し、1区とした。残土置き場確保のため、1区は南北に2分し、北半から調査を開始した。北半は平成26年度保護課調査の範囲内になり、未調査の御土居土塁部より下層の遺構面から手作業で調査を行った。北半の調査を2月19日に終了し、埋め戻しの後、反転して南半の調査に入った。南半は御土居の土塁部を重機で掘削し、検出した遺構面より手作業で調査を行った。調査の後半に、十一町の内溝と西堀川東岸部の状況を確認するため、西側2箇所と東側1箇所の拡張を行い、4月3日に終了した。調査地北側については、建物解体作業終了と保護課による試掘調査を待つため、暫く作業を停止した。試掘調査の結果、発掘調査が必要と判断されたため、4月13日より調査を再開した。調査区は調査地の北西部に2箇所である。東寄りの調査区は南北約7m、東西約6mを設定し、2区とした。西寄りの調査区は南北11m、東西約6mを設定し、3区とした。2・3区の調査は、工事による掘削深度が及ばず、以下の遺構の破壊を免れることから、現地表面より1.7mまでの掘削に留める指導が保護課よりあった。このため、3区では完掘に至っていない。調査は、全ての作業を終え4月30日に終了した。

調査面積は、1区467㎡、2区42㎡、3区67㎡であり、総面積576㎡である。調査では、1区で検出した遺構面は平安時代と考えられ、平安時代の西堀川小路の西堀川・西側溝、淳和院（十一町）築地の内溝と考えられる溝などを検出した。2区は室町時代の土取り穴と考えられる土坑群と平安時代の淳和院築地の内溝と考えられる遺構を確認した。3区は全域が御土居の堀内であった。

註

- 1) 鈴木久史 「平安京右京四条二坊十一町跡・壬生遺跡・御土居跡（13H408）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成26年度』京都市文化市民局 2015年

2. 位置と環境

(1) 位置と環境

調査地は平安京右京四条二坊十一町跡の東端と西堀川小路跡にあたり、さらに御土居跡にあたる。十一町は4町規模（十一町から十四町）と推定される淳和院の北東部にあたる。淳和院は淳和天皇が皇太子時代に御所としたのが始まりとされる。天長10年（833）に天皇は讓位し、この御所を淳和院と改称する。のちに淳和上皇から皇太后の御所となり、さらに元慶5年（881）淳和院別当が置かれる。淳和院別当は奨学院別当と兼任になり、足利義満がこの職について以降は、源氏長者たる将軍の世襲となり、明治維新前まで続いた。西堀川小路は、平安京を南北に貫く条坊道路であり、その中央に人工河川を伴う。左京の堀川に対して西堀川と呼ばれた。

御土居は、豊臣秀吉によって天正19年（1591）に築かれた京を囲む土塁と堀である。調査地周辺の地形は、東が一段高くなっており、西側が低くなる。これは、南北方向に築かれた御土居の痕跡であり、東側は土塁、西側は堀の名残である。調査地西側には、南北通りの「西土居通」や、西淳和院町、東淳和院町などが地名として残る。

(2) 既往の調査（図1、表1）

周辺における主な既往調査は、以下のとおりである。

平安京右京四条二坊十三町跡の調査（調査番号1）では、平安時代の前期から後期にわたる建物群を検出している。前期のものには、淳和院に関連すると考えられる大型の建物や鑄造施設を検出しており、遺物は土器類、軒瓦、鑄型、埴塼、銅滓などが出土している。右京四条二坊六町跡の調査（調査番号2）では、西靱負小路西築地の柱穴列、平安時代前期の掘立柱建物・柵・井戸・土坑・路面・側溝などを検出しており、土器・瓦類多数、陶硯、土馬、石帯、銭貨などが出土している。右京四条二坊四町跡の調査（調査番号3）では、平安時代の建物・柵・溝・井戸などを検出しており、土器類、瓦類、飾り金具などが出土している。土器には墨書土器が数点、瓦には軒瓦が十数点ある。右京四条二坊二町跡の調査（調査番号4）では、平安時代前期の掘立柱建物・井戸など

表1 既往調査一覧表

調査番号	調査年	文 献
1	1992	吉川義彦『淳和院跡発掘調査報告書 平安京右京四条二坊』 関西文化財調査会 1997年
2	1987～1988	平方幸雄ほか「平安京右京四条二坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1991年
3	2013	金島恵一・小檜山一良『平安京右京四条二坊四町跡・壬生遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-5 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年
4	1988	菅田 薫「平安京右京四条二坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年

を検出しており、土器・瓦類、石帯、銭貨などが出土した。

西堀川小路に対する調査は、多く行われており、主な既往調査は以下のとおりである。

平安京右京二条二坊十一町・西堀川小路跡の調査では、平安時代前期の西側溝・西路面・西堀川・東路面などを検出している¹⁾。右京三条二坊十町跡の調査では、平安時代の西側溝・西路面・西堀川・東路面などを検出している²⁾。右京五条二坊五町跡の調査では、平安時代の西堀川・東路面・東側溝・十一町の内溝などを検出している³⁾。右京六条二坊六・十一町跡の調査では、平安時代の西堀川・東路面・東側溝・東築地などを検出している⁴⁾。

参考文献

『京都市遺跡地図台帳【第8版】』京都市文化市民局 2007年

『京都府史蹟勝地調査会報告』第八冊 京都府 昭和2年(1927) 復刻版 昭和58年(1983)

『平安時代史辞典』角川書店 1994年

『平安京提要』角川書店 1994年

『京都の地名』平凡社 1987年

註

- 1) 高橋 潔ほか『平安京右京二条二坊十一町・西堀川小路跡、御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-25 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2014年
- 2) 平尾政彦「右京三条二坊」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1984年
- 3) 堀内明博「平安京右京五条二坊」『平安京跡発掘調査報告 昭和55年度』京都市埋蔵文化財調査センター 1981年
- 4) 小檜山一良ほか『平安京右京六条二坊六・十一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-3 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007年

3. 遺 構

(1) 1区

1) 層序 (図版1～8)

調査地は、周辺の地形が東から西へ低くなる所に位置しており、調査地北側では東西の中程から、調査地南側では西端から西へ下がり、低くなる。これは既述した安土桃山時代の御土居の痕跡であり、東側は積み上げられた土塁、西側は並行して掘られた南北方向の堀の名残である。

1区は調査地の南東側に位置し、平安時代の西堀川小路の西半、安土桃山時代の御土居土塁部分にあっている。1区南壁では地表面の標高は30.1m前後である。安土桃山時代から江戸時代の層が地表から厚さ0.6m前後ある。鎌倉時代から室町時代の河川堆積層は厚さ0.7m前後である。この下には、平安時代の河川堆積層と整地層が厚さ0.4～0.7m前後である。地山は標高28.8m前後であり、この地山の上に堤20があり、溝22・23は地山を掘り込んでいる。

2) 遺構の概要

1区では河川堆積層が厚く、調査区壁断面の精査と出土遺物から、それらの時期は平安時代から室町時代である。検出遺構は、平安時代前期から中期の溝22・23・31・36、路面などを検出した。1区西側では平安時代中期から後期の堤20・河川堆積層などを検出した。検出遺構面から上層では鎌倉時代から室町時代の河川堆積層が重なり、その間には硬化面が何面かある。上部では安土桃山時代の御土居土塁盛土を検出した。

推定西堀川小路内での検出位置と出土遺物から、溝22は西堀川、溝23は西堀川小路西側溝、溝36は十一町築地の内溝であろう。堤20は洪水防止の堤防と考える。

3) 遺構 (図8、図版9)

I 平安時代前期から中期前半の遺構

築地跡 1区西側で検出した堤20断面の精査によって、西堀川小路の西築地推定位置で、築地

表2 遺構概要表

時 代	遺 構
平安時代前期 ～中期前半	1区：築地跡、路面、溝22(西堀川)、溝23(西側溝)、溝36(内溝)、溝31 2区：溝213(内溝)
平安時代中期後半 ～後期	1区：堤20、流路30・27、河川堆積層
鎌倉時代 ～室町時代	1区：河川堆積層 2区：土坑群(土取り穴)
安土桃山時代	1区：御土居土塁盛土 3区：堀301(御土居堀)

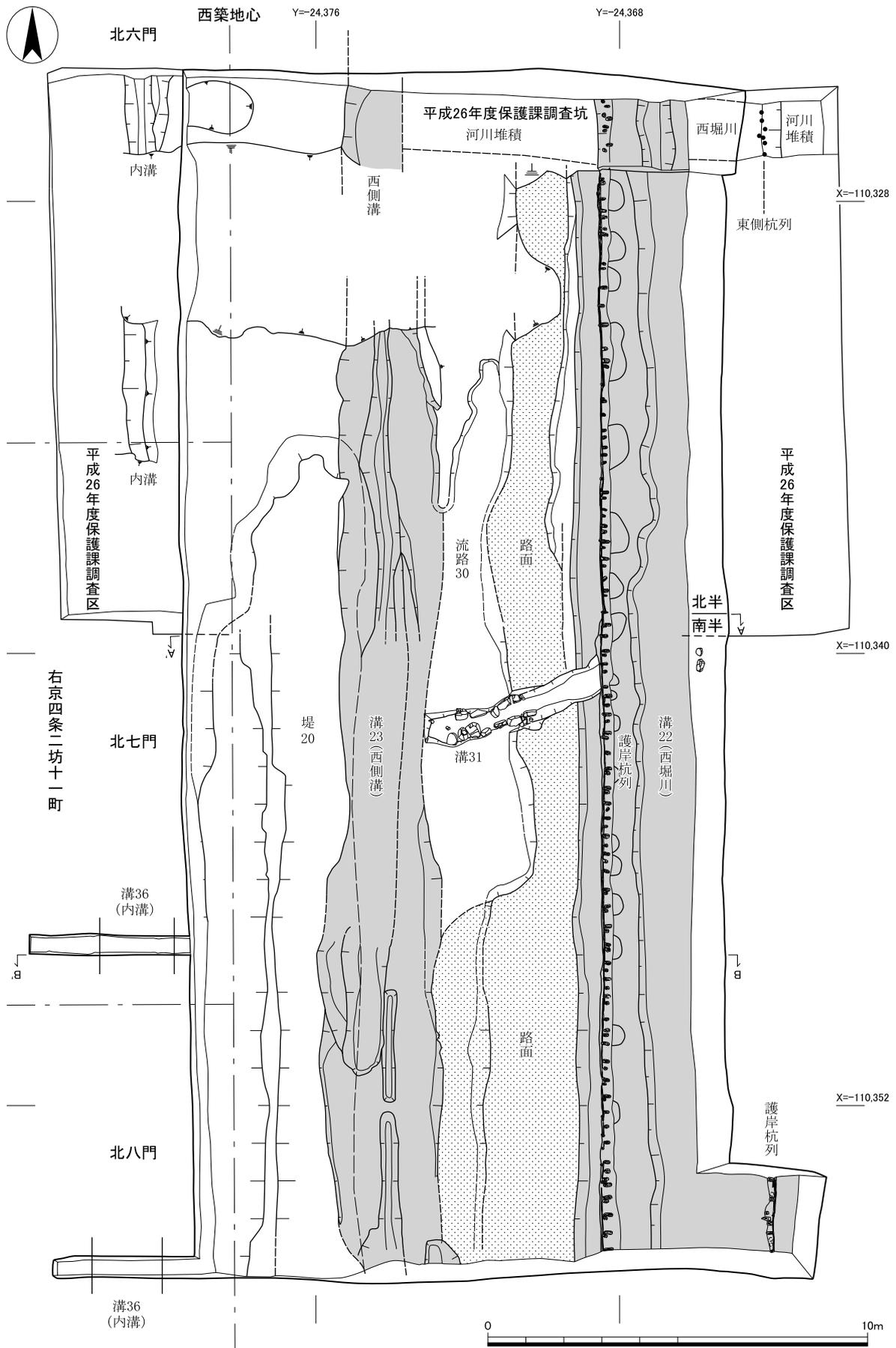


図8 1区遺構平面図(1:150)

の痕跡と考えられる土層を3箇所を確認した。1区南壁では、東西幅約1.5m、厚さ約0.15mを測る(図版3-138)。土層は黒色泥土の地山層上に、土師器や瓦片が混じる黒褐色砂泥層で固く締まる。B-B'(X=-110,348セクション)では、東西幅約1.7m、厚さ約0.3mを測る(図版6-69~74)。土層は黒~黒褐色砂泥の地山層上に、土師器片や細砂が混じる黒褐色砂泥層が重なり、版築されたものであろう。A-A'(中央セクション)では、東西約2.1m、厚さ約0.2mを測る(図版8-77・78)。この部分の堤20下の層は全体に不明瞭であるが、土層は、にぶい黄褐色砂泥の地山層及び灰黄褐から黒褐色砂泥層と相違が認められ、土師器片が混じるオリーブ褐色砂礫から黒褐色シルトである。

路面(図版10) 1区中央部で南北に延びる硬化面を検出した。西堀川小路の西側路面であろう。溝22の西肩部から西に広がり、幅は一定しない。西堀川の洪水によって一部が浸食されたと考えられる。検出長は南北約29mで、調査区外南北に延びる。路面の幅は1.5~4.0m、厚さは0.1~0.4mを測る。1区南側では、小礫が密に混じり、固く締まる。

溝22(図9、図版1~8・10) 1区東端で検出した西堀川と考えられる南北方向の溝である。西肩から溝の中央あたりまでを検出した。東半は調査区外になるが、調査区南端を東へ拡張して、東肩部の一部を検出した。両岸は杭と横板で護岸している。検出長は南北約31mを測り、調査区外南北に延びる。西肩から東肩の幅は約5.5~5.7m、護岸杭列の東西間幅は4.5m前後、路面上面からの深さは0.9m前後を測る。埋土は下層から上層に向かって、砂礫主体の層(埋土I)、シルトと泥土を主体とする層(埋土II)、拳大の礫を多く含む砂礫層(水流跡)に大別できる。埋土Iは、厚さ0.1m前後あり、西堀川が維持され、水流があった時期の堆積層であろう。埋土IIは、厚さ0.6~1.0m、杭列上端より0.3~0.5m以上高く堆積する。西堀川を埋没させた洪水層であろう。溝の埋没は平安時代中期中頃と考える。水流跡は、西堀川跡の西寄りに位置し、厚さ0.5~1.0mである。埋没した後の西堀川を踏襲する溝であろう。

西側杭列は南北約31mの間に1列119本を検出した。東側杭列は拡張部南北約2mの間に1列7本を検出した。杭列は多くが2本1組で、その間隔は0.45m前後で打たれ、土留めの横板を押さえる。杭列は所々、2本1組が3本や1本になり、横板の内側に打ち込まれた杭もある。また杭の根元に掘り返した跡や水流によってえぐられた窪みがある。これらは護岸の杭を打ち直したり、窪みを埋め戻した修復跡であろう。杭の樹種は大半がヒノキであるが、コウヤマキが4本(図9-27・32・37・85)ある。杭の直径は5~11cmであり、平均は約8cmである。残存長は33~139cm¹⁾である。横板は1枚の長さが3m前後で、幅は0.15mである。所々、上下2段の板が残る箇所がある。樹種はスギである。

溝23(図版1~3・6~8・11) 1区西側で検出した西堀川小路の西側溝と考えられる南北溝である。検出長は南北約31mを測り、調査区外南北に延びる。幅は1.5~3.3m、路面上面からの深さは0.7m前後を測る。底部は地山を深く掘り込む。埋土は、シルトや泥土を主体とし砂礫が混じる層(埋土I)と砂礫を主体とし砂やシルトが混じる層(埋土II)に大別できる。埋土Iは、深さ0.2~0.4mあり、当初の西側溝の埋土である。埋土IIは、深さ0.2~0.5mあり、当初の西側溝が埋

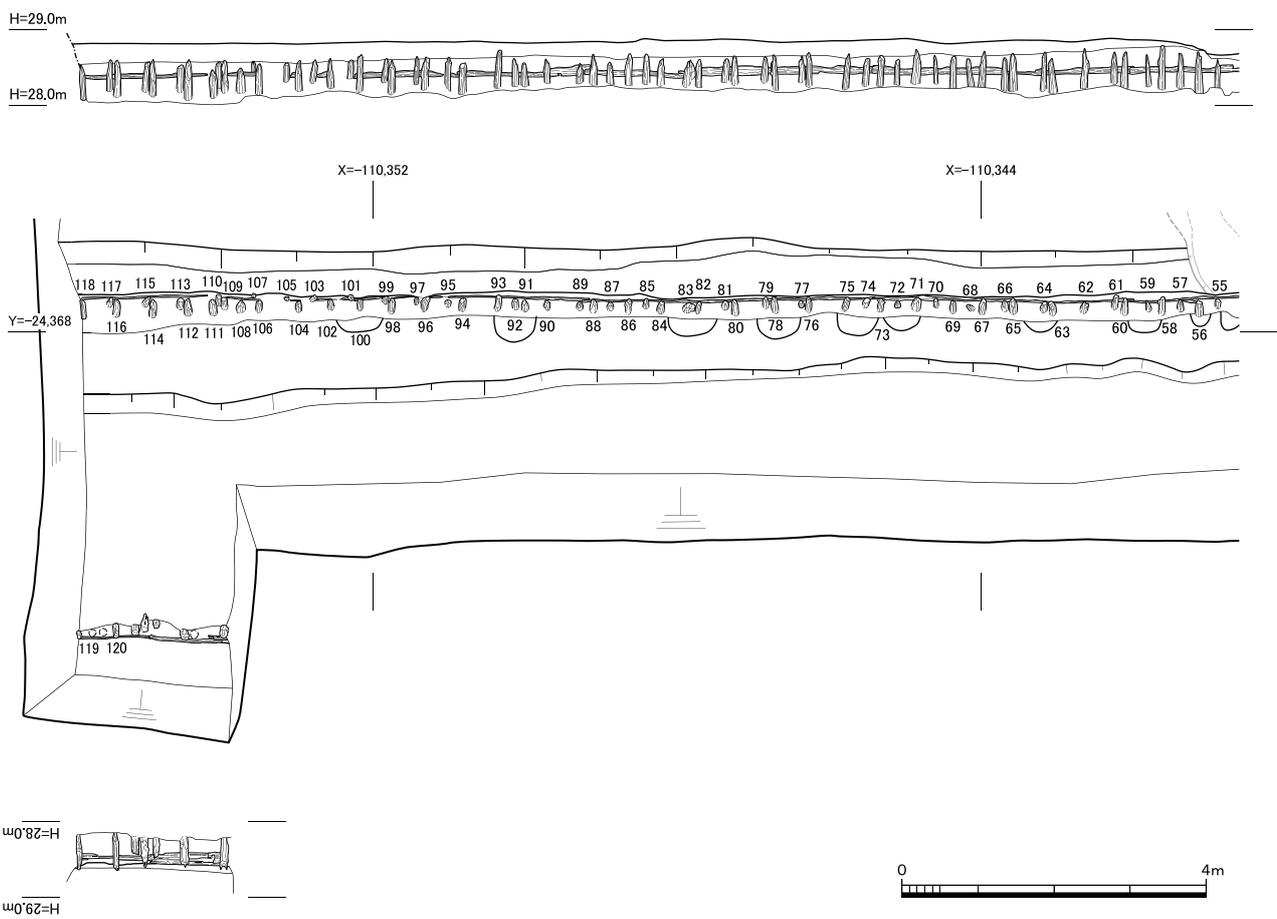
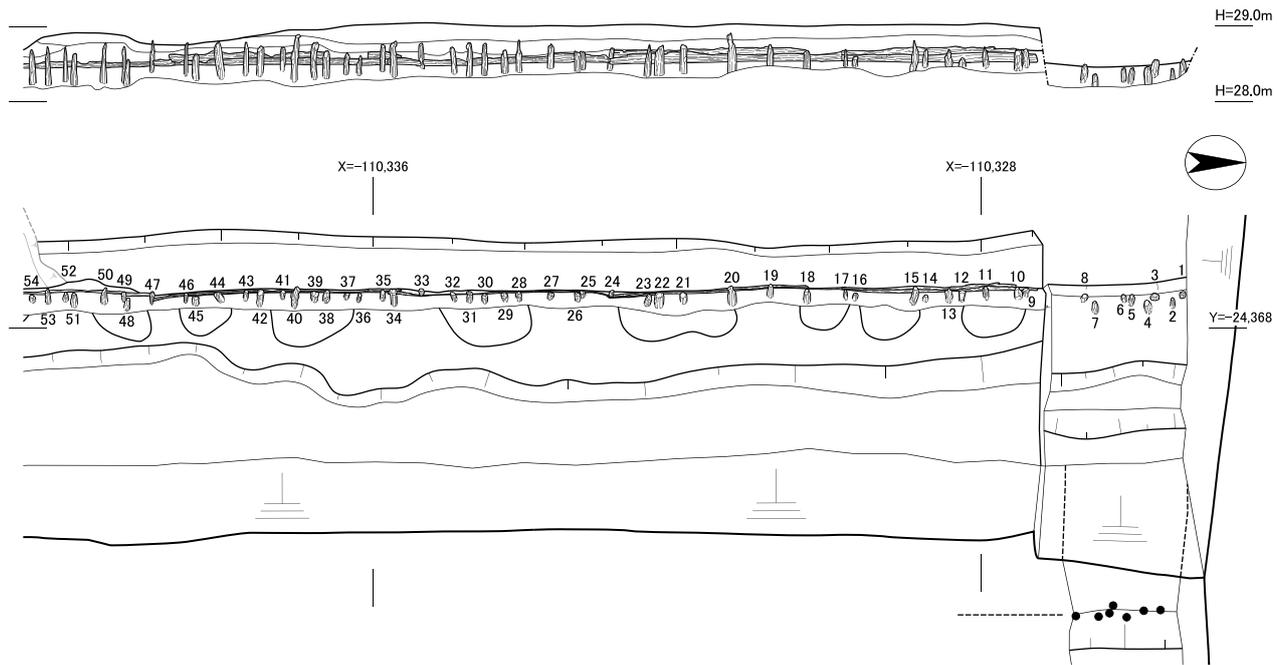


图9 沟22杭列实测图 (1 : 100)

没した後に位置を踏襲した溝の堆積層で、埋没時期は平安時代中期中頃と考える。

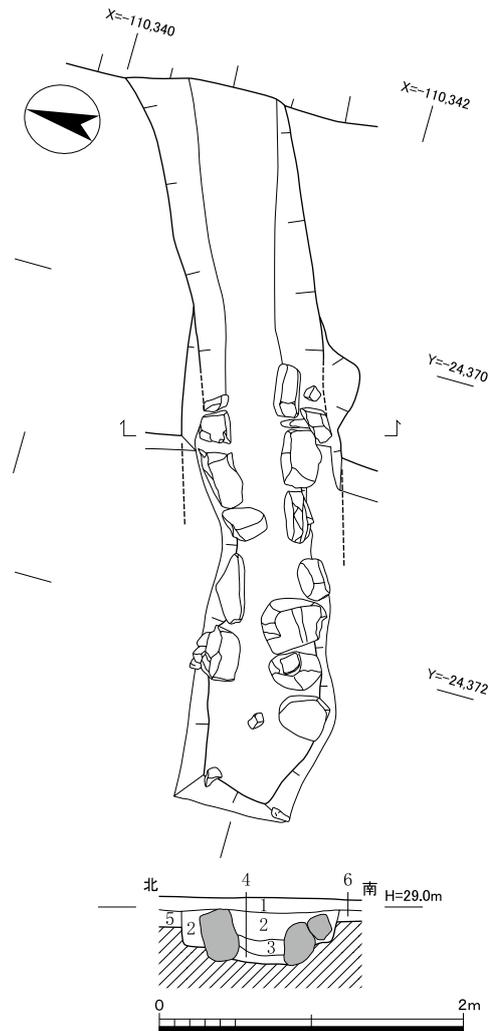
溝36 (図版1～3・6～8) 西側拡張部の断面で確認した十一町の内溝である。南北に延びると考えられる。B-B' (X=-110,348セクション) では、幅約2m、0.15mを測る (図版6-67・68)。1区南壁では、幅約1.8m、深さ約0.2mを測る (図版3-137)。溝心はY=-24,381.1前後であり、推定位置より西側である。

溝31 (図10、図版11) 1区中央部の西堀川と西側溝の間で検出した一部石組の東西方向溝である。東で北にやや振れる。溝底部は約0.15mの高低差で西から東に低くなる。検出長は約4.7m、幅は1m前後、検出面からの深さは0.25～0.35mを測る。西半はやや乱れているが、石組を検出した。石は直径0.2～0.4mであり、石組の内法は幅0.2～0.3mである。検出状況と断面精査から石組溝部分は暗渠と考えられる。この溝は西側溝から路面部分を横断して、西堀川に流す溝と考えられ、暗渠と考えられる部分は路面であった可能性がある。

II 平安時代中期後半から後期の遺構

堤20 (図11、図版1～3・6～9・11) 1区西側で検出した堤防と考えられる南北方向の堤である。検出長は約22.5mあり、北側は途切れるが後世の削平によると考えられる。南側は調査区外に延びる。基底部の幅は4.0～4.5m、高さは1.2～1.7mを測る。構築土は黒褐色砂泥を主体とし、所々砂礫が混じる。砂礫が混じる部分は修復の痕跡と考えられる。さらに堤の北東部に東西約2m、南北約3m範囲で砂礫と砂泥の互層があり、大規模な修復の跡と考えられる。堤は、ほぼ西堀川小路西築地の推定位置と重なり、埋没した東の西側溝上にかけて構築されている。この時期には西堀川小路は、西堀川と西側溝が洪水により埋没している。そのため、十一町内の洪水被害を防ぐための施設として築かれたものであろう。北側で検出できなかったのは、後世に破壊されたと考えられる。堤の構築年代は平安時代中期後半から後期前半と考える。

流路30 (図20、図版1～3・6～8) 1区西半で検出した。西側溝埋没後、その直上を流れる南北方向の流路である。検出長は約31m、調査区外の南北に延びる。北半では平安時代前期の路面、南半では平安時代前期から中期前半の西側溝を侵食する。幅は2.5～5.0m、深さは0.3～0.6mを測る。埋土は砂礫と砂を主体とする。流路30は堤の構築後のものであり、堤の裾部に埋土が堆積する。出土遺物から時期は平安時代後期と考える。



- 1 7.5YR4/4褐色砂礫 混φ1～7cmの礫中量
- 2 10YR3/2黒褐色細砂 混φ1～5cmの礫少量
- 3 10YR4/1褐灰色粗砂 混φ1～2cmの礫少量
- 4 10YR5/4にぶい黄褐色砂礫 混φ3～5cmの礫中量
- 5 7.5YR4/3褐色砂礫 混φ1～5cmの礫中量
- 6 10YR4/2灰黄褐色砂礫 混φ1～5cmの礫中量

図10 溝31実測図 (1:50)

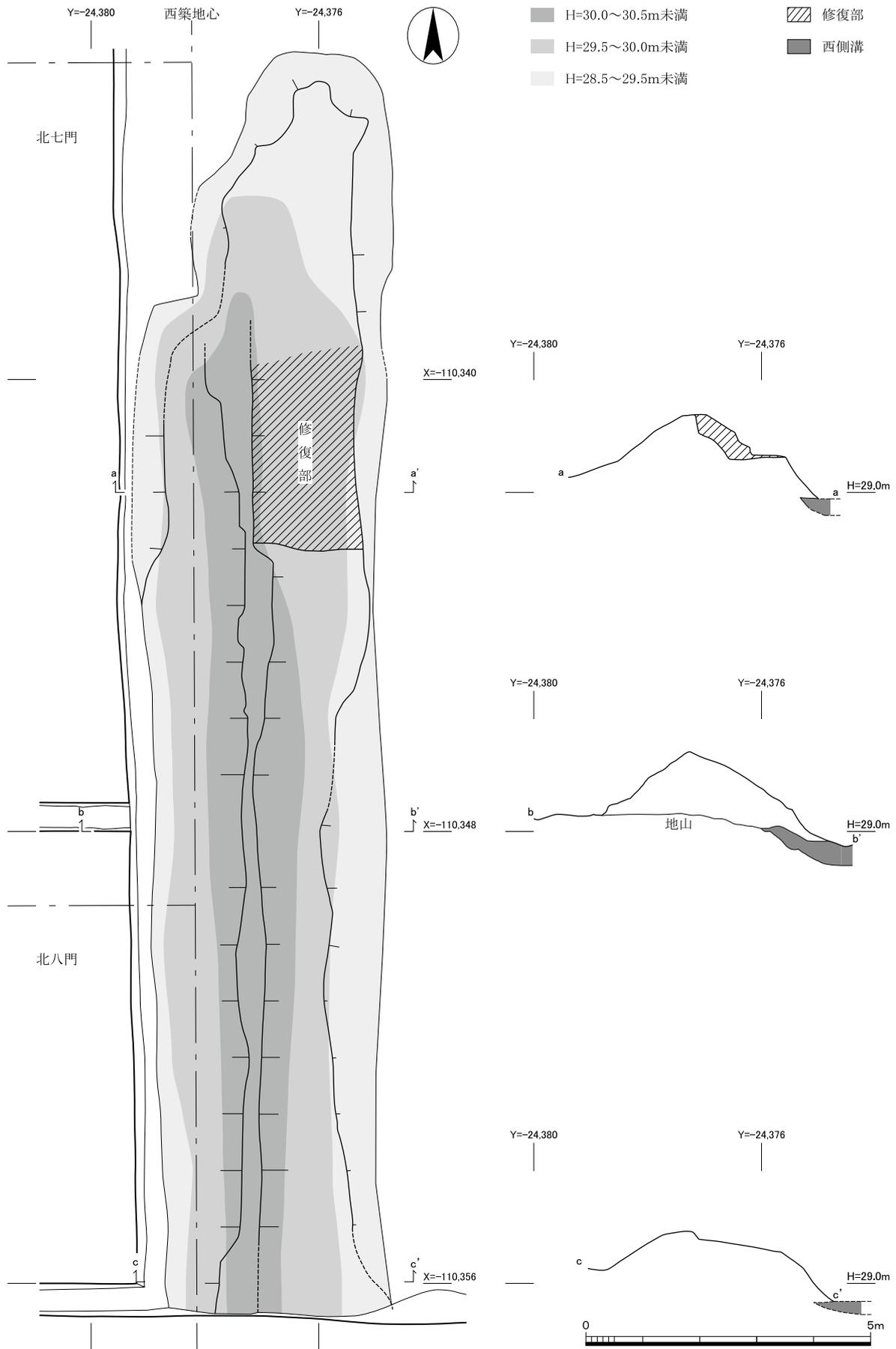


图11 堤20実測図 (1 : 100)

流路27(図20、図版1・2・7・8) 1区東側で検出した。西堀川とそれを踏襲する溝の埋没後、その直上を流れる南北方向の流路である。検出長は約31m、調査区外の南北に延びる。検出幅は2.5～4.0mあり、調査区外の東に広がる。深さは0.3～0.6mを測る。埋土は砂礫と砂を主体とする。流路27は断面精査から流路30より後の時期であり、出土遺物から平安時代後期と考える。

河川堆積層(図版1～8) 断面精査と出土遺物から平安時代後期と考えられる河川堆積層を検出した。流路30が掘り込む砂礫層(図版2-76・77、図版7-21、図版8-26)と流路27が掘り込む層とその上のより時期が新しい砂礫層(図版2・3-55～61・64～66、図版6・7-10・11・15、図版8-3～5・14)である。堤の東側に堆積し、1区南北の全域にある。厚さ0.2～0.3mを測る。堆積層の途中に上面が固く締まる硬化面を2面確認できた。洪水などの堆積の間に道として使用されたと考えられる。

Ⅲ 鎌倉時代から安土桃山時代の遺構

河川堆積層(図版1～8) 1区南壁の堆積状況精査から、前述の河川堆積層の上には、さらに砂礫の河川堆積層を堤の東側全域で確認した。厚さ約0.8mであり、道として使用されたと考えられる何面かの硬化面がある。鎌倉時代から室町時代以降の河川堆積層と考える。

石組み遺構3(図20) 平成26年度保護課調査で検出した遺構である。1区北部中央に位置し、平安時代の路面を掘り込む。東西約1.6m、南北約1.7m、深さ0.7～0.8mを測る。室町時代後期と考えられる小片・少数の土師器が出土した。性格は不明である。

御土居土塁(図版1～5) 平成26年度保護課調査で、1区北半には御土居土塁が良好に遺存していることが確認され、さらに1区南半にも土塁が続いていることが判明した。今回調査では、1区南壁堆積状況の精査から、壁断面東側で土塁の盛土を確認した。西から東に積み上げている。東西の幅約5.7m、厚さ約0.9mを測る。土塁は、周囲からは南北に帯状に高まった平安時代の堤と西堀川小路の河川堆積層を基礎とし、盛土して土塁を構築したと考える。

(2) 2区

1) 層序(図12)

現地表面の標高は29.6m前後である。地表から現代盛土が厚さ約0.15m、その下は遺物包含層と礫が混じる砂泥層が、厚さ約0.05mある。地山面は標高29.4m前後である。調査区西側は、土坑群が地山を切り込む。また地山層の標高27.8m前後でアカホヤ火山灰を検出した。調査地近辺に分布すると考えられる。保護課指導の掘削下限深度より下層にもあるため、厚さは不明である。

2) 遺構の概要

調査区東側の大半は近代の建物で攪乱されていたが、南東部にわずかに遺構面が残る。調査区南壁断面の精査によって、溝を検出した。溝は、地山砂礫層を掘り込む。西側は、黄褐色シルトの地山を掘り込む土坑群を検出した。深さは約1.4m前後である。

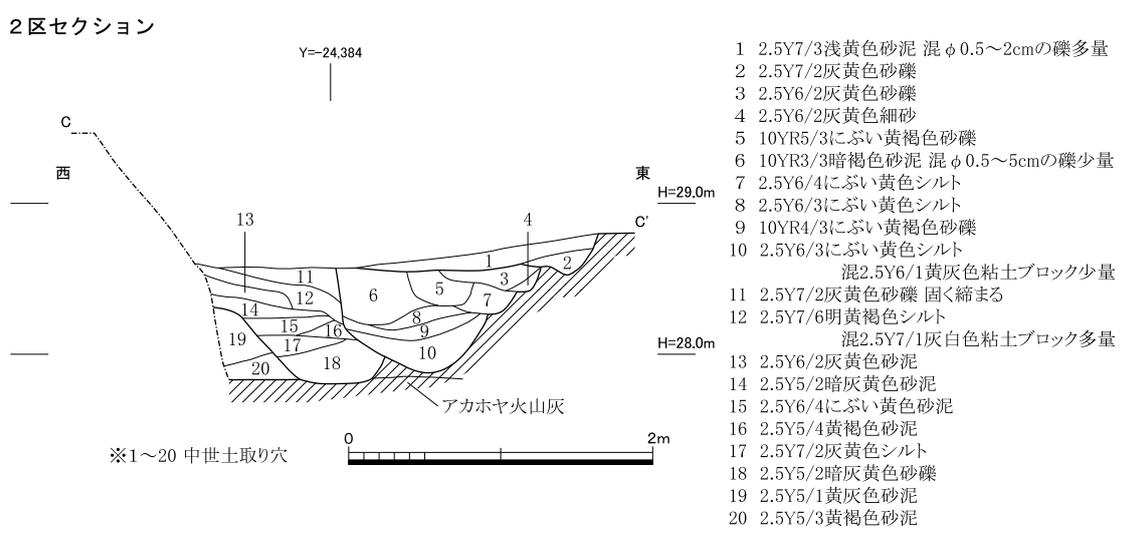
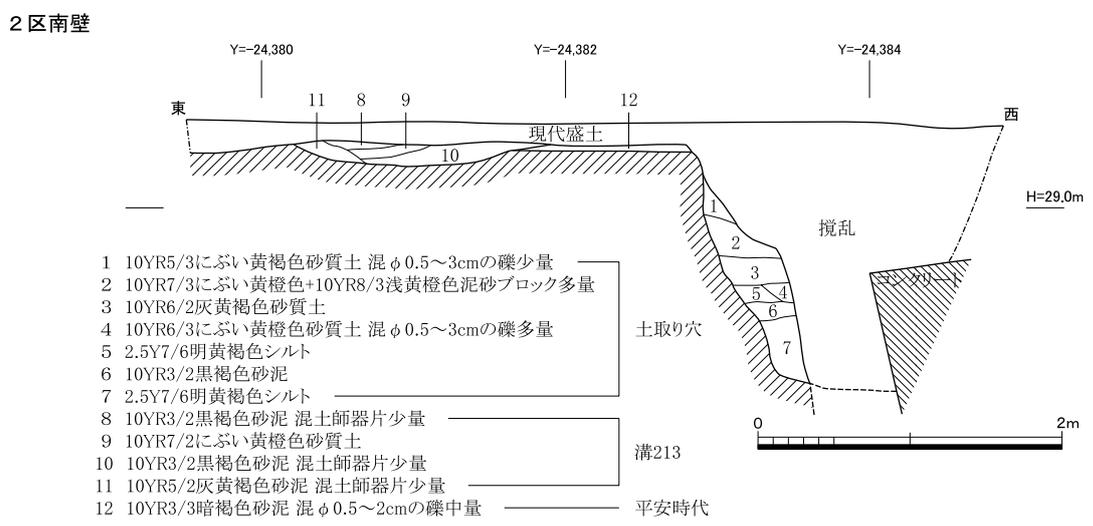
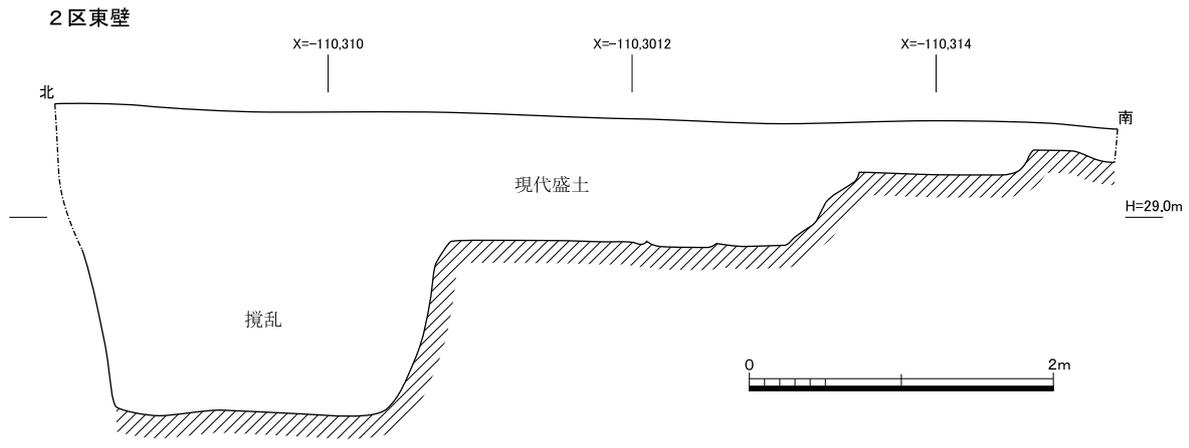


図12 2区東壁・南壁・セクション断面図 (1:50)

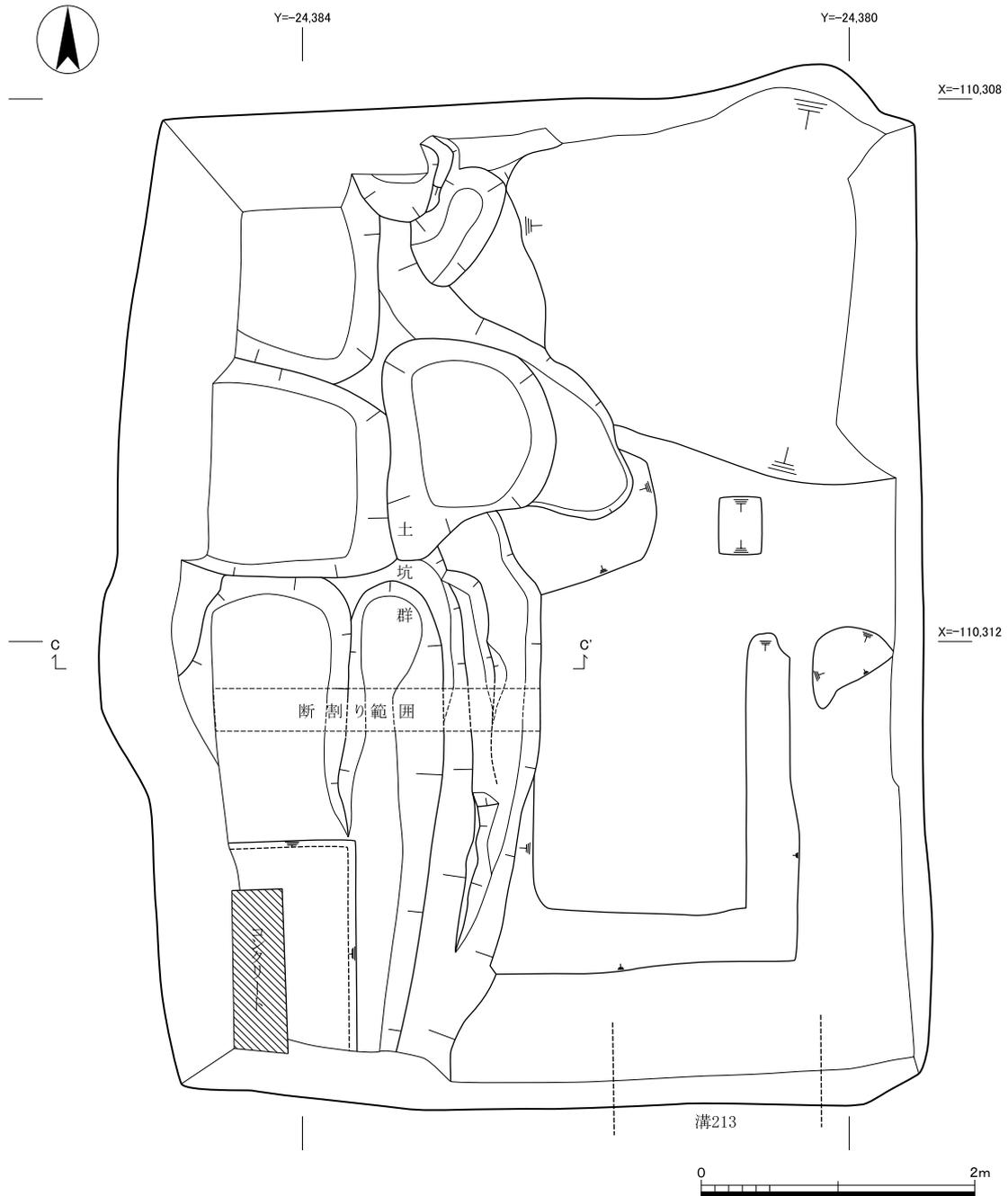


図13 2区遺構平面図（1：50）

3) 遺構（図13、図版12）

溝213 調査区南壁断面で確認した溝である。幅約1.7m、深さ約0.15mを測る。調査区外の南へ延びる南北溝と考えられる。1区拡張部で確認した内溝36の北の延長部に位置することから、同じ十一町の内溝であろう。

土坑群 調査区西側で、地山を掘り込む土坑を8基前後検出した。比較的残存状況の良い土坑の大きさは、東西1m前後、南北1.6m前後を測る。深さは一定しないが、地山黄褐色シルトがなくなる深さで止まる。出土遺物から、これらの土坑群は御土居構築に先立つ、室町時代の土取り穴であろう。

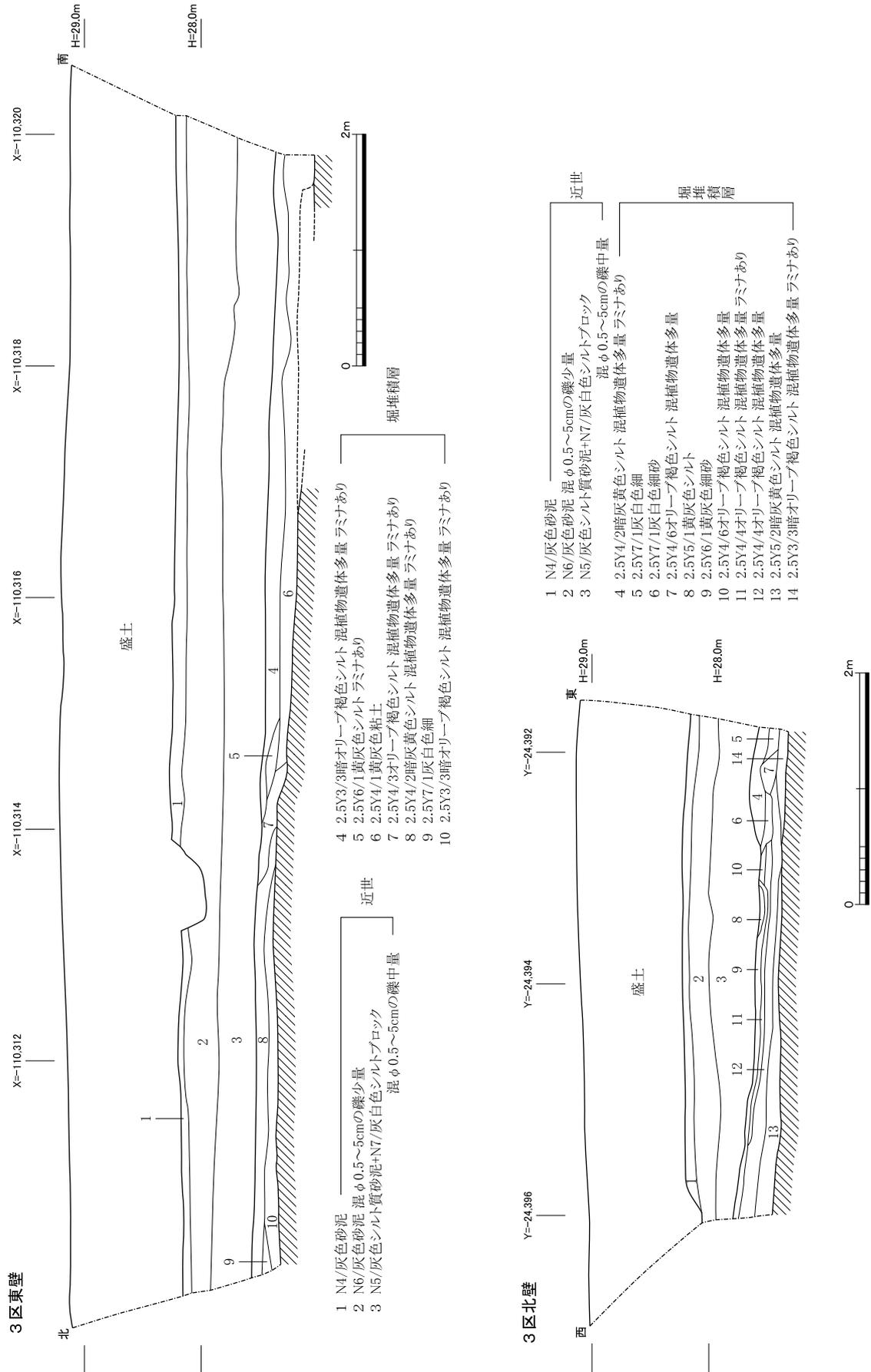


図14 3区東壁・北壁断面図 (1:50)

(3) 3区

1) 層序 (図14)

現地表面は29.1m前後である。現代盛土は厚さ0.85m前後ある。その下は、すべて御土居の堀の埋土・堆積層である。近世の砂泥層が厚さ約0.6mあり、さらに下にはシルト層が厚さ0.2m前後ある。堀の底部は地山面であり、標高は27.4m前後である。

2) 遺構 (図15、図版12)

全域が、御土居の土塁に並行して掘られた南北方向の堀にあっている。

堀301 調査区南側1/3は、保護課指導の掘削下限深度より完掘していないが、残り2/3は地山面まで完掘した。堀の東西立ちあがりは検出できなかった。調査区中央部には東西方向に約0.1mの段差がある。堀掘削時における、作業単位の境である可能性がある。埋土は水平堆積であり、上半は礫混じりの灰色砂泥(埋立て土)、下半はシルト層(堆積層)に大別できる。下半の堆積層からは近世の遺物が出土し、植物遺体が多く混じる。断面観察では葉理が確認でき、水流があるときがあり滞水と流水が繰り返し、近世の一定期間は開口していたと考えられる。埋立て土は、類似する何層かの礫混じりの砂泥層であり、堀を短期間で埋め立てたと考えられる。

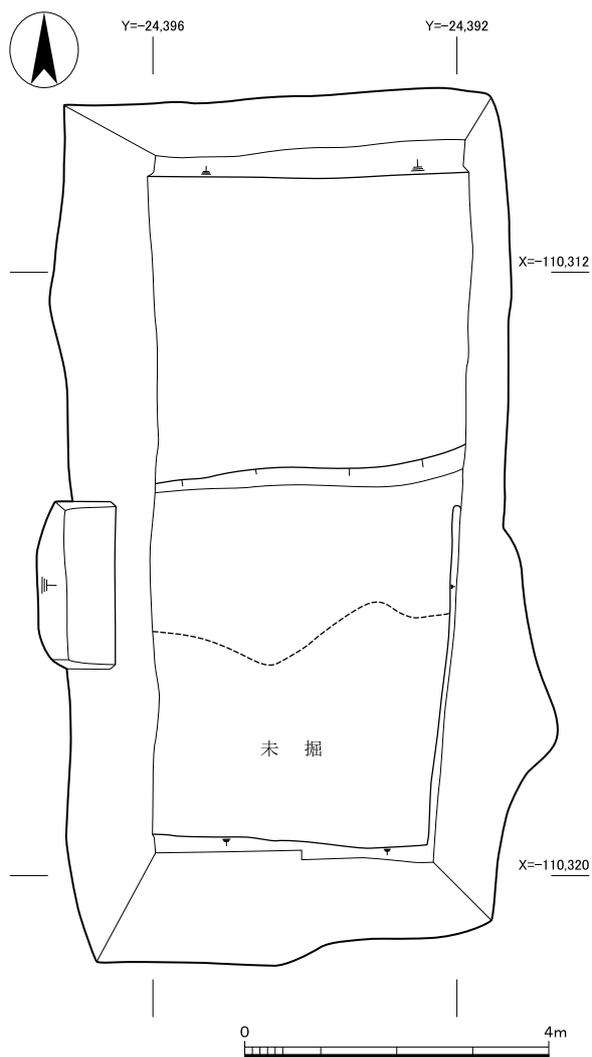


図15 3区遺構平面図(1:100)

註

1) 『延喜式』卷四十二 左右職

「凡堀川杭者。不輸課不課戸。皆令戸頭輸之。其戸十九已下一株。廿人已上二株。卅人已上三株。(長八尺以下七尺以上。本径五寸。末径三寸。)」

『続日本後記』卷一 仁明天皇 天長十年(833)五月

「太政官処分。課左右京戸。令輸檜柱一万五千株。以充東西堀河杭料。」

これらの史料から東西堀川は杭で護岸され、平安時代中期後半には修復もされていること、杭は檜であり、その径は9~15cmだとわかる。

4. 遺 物

(1) 遺物の概要

調査では、整理用コンテナで47箱の遺物が出土した。出土遺物には、土器類・瓦類・木製品・石製品・自然遺物がある。出土遺物の約5割は瓦類が占め、次いで土器類が約4割、その他が1割程度である。

出土遺物の時期は、古墳時代以前から江戸時代に及ぶ。平安時代の遺物が大半を占め、次に多いのが安土桃山時代から江戸時代の遺物である。鎌倉時代から室町時代の遺物は少量であり、古墳時代以前は少数にとどまる。

瓦類は、堤20から多量に出土した。土器類は、溝22から多く出土した。木製品は、溝22と堀301(御土居の堀)から出土した。自然遺物は、動物の骨が溝22・23から出土した。

出土遺物は、大半が1区の河川堆積層からの出土であり、洪水などによる磨滅・細片化が激しい。2区は土坑群より平安時代から室町時代の遺物が出土し、3区では平安時代から江戸時代の遺物が出土したが、ともに少量・小片である。その中から図示できるもの抽出した。図示した土器・軒瓦は、全て1区から出土した遺物である。出土遺物の時期については、平安京提要「平安京の遺物」¹⁾と平安京・京都I期～XIV期の編年案²⁾に準拠した。

(2) 土器類 (図16・17、図版13)

1は土師器高杯の脚部である。杯部から上半部の残存長が10cm前後、断面の外径は4.2cm、内径は1.6cmである。外面は7面の面取りを施す。溝23上層から出土した³⁾。時期は平安時代前期である。

2・3は土師器高杯の脚部である。2は裾部から下半部の残存長が10cm前後、断面の外径は5.0

表3 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
古墳時代以前	土師器				
奈良時代	瓦類		軒丸瓦2点、軒平瓦1点		
平安時代	土師器、須恵器、緑釉陶器、 灰釉陶器、黒色土器、輸入 陶磁器、瓦類、木製品、動 物遺体骨		土師器5点、須恵器3点、緑釉 陶器3点、灰釉陶器2点、輸入 白磁1点、軒丸瓦1点		
鎌倉時代 ～室町時代	土師器、須恵器、焼締陶器、 瓦器、輸入陶磁器、瓦類、 石製品		輸入青磁1点		
桃山時代 ～江戸時代	土師器、施釉陶器、染付磁 器、瓦類、木製品		木製品1点		
合 計		50箱	20点(2箱)	2箱	46箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より3箱多くなっている。

cm、内径は1.3cm、外面は9面の面取りを施す。3は杯部から上半部の残存長が13cm前後、断面の外径は4.1cm、内径は1.8cmである。外面は7面の縦面取りを施す。2・3は溝22護岸裏込めから出土した。時期は平安時代前期である。4は土師器皿である。口径は不明、器高は1.7cm前後である。体部は底部から内湾して立ち上がり、口縁部で屈曲して外傾する。口縁端部は上へつまみ上げ、小さく丸味をなす。溝22下層から出土した。時期はⅢ期古段階から中段階に属し、平安時代中期に比定できる。5は須恵器壺である。口縁部を欠くが、完形に近い。残存高は7.2cm、体部最大径は5.1cm、頸部径は2.3cm、底部径は3.3cmである。底部外面は糸切り痕が残る。底面には、長さ2.6cm、幅0.1cm前後のやや曲がるが直線に近い線刻が施される。溝22中層から出土した。時期は平安時代中期前半である。6は須恵器壺である。残存高は2.6cm、底部径は5.3cmである。底部外面は糸切り痕が残り、外端部にケズリを施し、小さい高台状にする。また底部外面に墨書が認められる。「房□」、房人であろうか。溝22中層から出土した。時期は平安時代中期前半である。7は須恵器鉢である。残存高は10.4cm、底部径は13.3cmである。底部は平底であり、体部は外反して直線的に立ち上がる。焼成は不良で軟質である。溝22上層から出土した。時期は平安時代中期前半である。8は灰釉陶器碗皿類である。主に底部のみ残存する。底部径は12cm、高台は貼り付け、高さは1.7cmである。底部内面は、墨痕と思われる黒い斑点が点在し、底部外面には付着する。また底部内面は滑らかな面

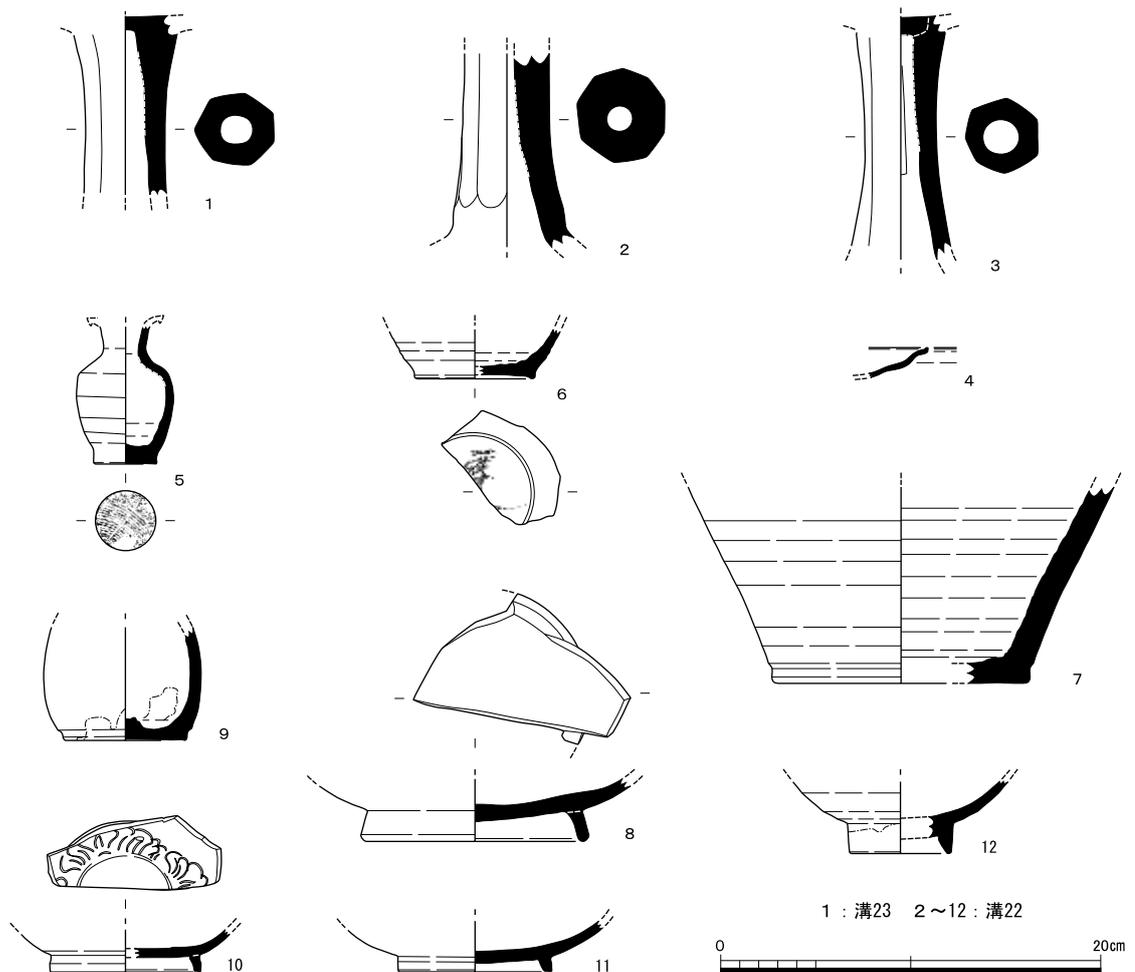


図16 出土土器実測図1 (1 : 4)

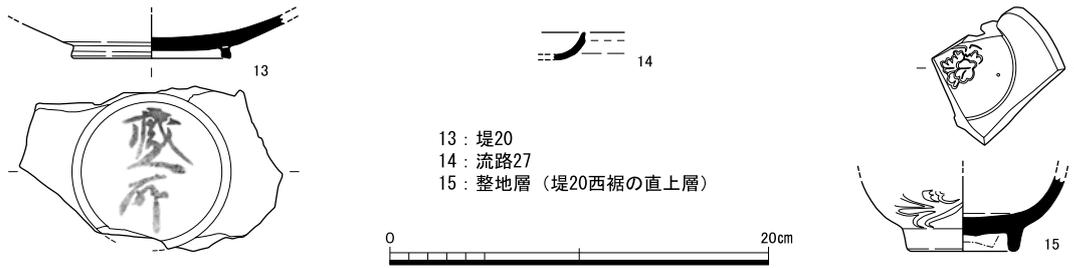


図17 出土土器実測図2（1：4）

がある。この灰釉陶器は硯として使用された転用硯であろう。溝22中層から出土した。時期は平安時代中期前半である。9は緑釉陶器壺である。残存高は6.0cm、底部径は6.4cmである。底部は平底であり、体部は内湾して立ち上がる。底部内面には、ナデによる渦状の胎土盛り上がりが残る。全面に施釉し、内面と外面の色が大きく異なる。おそらく水分や鉄分などの影響による違いであろう。溝22下層から出土した。時期は平安時代前期後半である。10は緑釉陶器皿である。残存高2.3cm、底部径7.8cmである。高台は貼り付け、内外面に施釉する。底部内面には陰刻花文が彫られる。溝22中層から出土した。時期は平安時代中期前半である。11は緑釉陶器碗皿類である。主に底部のみ残存する。底部径は8.1cmである。高台は削り出し、内外面に施釉する。溝22下層から出土した。時期は平安時代中期前半である。12は輸入白磁碗である。残存高は3.8cm、底部径は5.2cmである。高台断面形は逆三角形を呈し、端部は細くなる。底部外面と高台は露胎である。溝22上層から出土した。時期は平安時代後期である。

13は灰釉陶器碗である。主に底部のみ残存する。底部径は8.2cmである。高台は貼り付け、底部内面に施釉する。底部外面に墨書が認められる。「蔵人所」と読める。堤20上層から出土した。時期は平安時代後期前半である。

14は土師器皿である。口径は不明、器高1.5cmである。底部から内湾して立ち上がり、口縁部はつまみ上げ、口縁端部は細くなる。西堀川の上の流路27から出土した。時期はVI期に属し、平安時代後期後半に比定できる。

15は輸入青磁碗である。残存高4.0cm、底部径は5.4cmである。体部は、内湾して底部から立ち上がる。高台は削り出し、直線的に下る。底部内面と高台内面は露胎である。底部内面には陰刻花文、体部外面には雲文が彫られる。堤20西裾直上の整地層（図版6-5）から出土した。時期は室町時代前半である。

（3）瓦類（図18、図版13）

16は重圏文軒丸瓦である。圏線は3線ある。難波宮式であろう。長岡京古瓦聚成⁴⁾の図版6014と同文と考えられる。重圏文軒丸瓦は平安京右京四条二坊十三町の調査（調査番号1）でも出土している。流路30から出土した。17は外区のみ軒丸瓦である。鋸歯文と圏線、珠文がある。平城宮式と考えられる。堤20上層から出土した。18は巴文軒丸瓦である。内区は左巻きの巴尾部がある。外区は、界線を挟み珠文帯である。堤20検出中（図版6-5対応層）に出土した。時期は平安時代

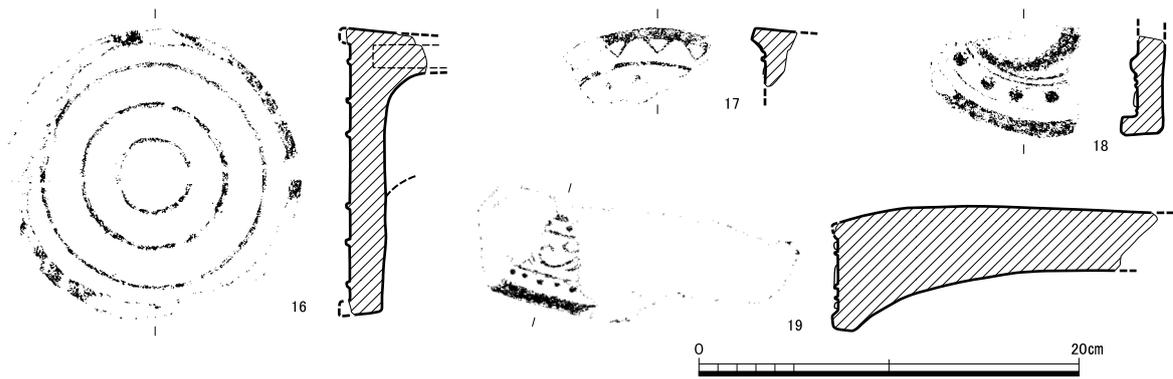


図18 軒瓦拓影・実測図（1：4）

後期である。19は唐草文軒平瓦である。瓦当面が狭く断言できないが、平城宮6721C式と思われる。同文と考えられる軒平瓦が平安京右京四条二坊十三町の調査（調査番号1）でも出土している。堤20上層から出土した⁵⁾。

（4）その他の遺物（図19、図版13）

木製品 20は独楽と考えられる。外面の上下に、幅が0.5cm前後の面取りを細かく施し、下半は内湾して下がる。円形であり、上半が広く、下半がすぼむ。厚さは3.0cm、上の径は4.4cm、下の径は2.5cmである。中心には、径0.6cmの軸が通り、長さは3.3cm残存する。樹種はスギである。3区堀301（御土居堀）から出土した。その他に、小片の箸・部材・漆器などが出土した。

石製品 五輪塔（空）と用途不明である拳大の球状・半球状のものが河川堆積層から出土した。

動物遺体 溝22・23から、細片のウマのアゴ骨・歯が出土した。

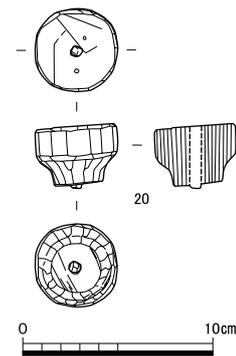


図19 木製品実測図（1：4）

註

- 1) 平尾政幸ほか「平安京の遺物」『平安京提要』角川書店 1994年
- 2) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 3) 遺物出土地点の上層・中層・下層は、遺物取り上げ時に、遺構の埋土を上から大まかにを分けたものであり、埋土Ⅰ・Ⅱなどと一致しない。
- 4) 『長岡京古瓦聚成』図版編 向日市埋蔵文化財調査報告書第20集 向日市教育委員会 1987年
- 5) 堤20からは軒瓦の他にも丸瓦・平瓦が多く出土している。これらのことから、瓦を使用した建物の存在が近隣に想定され、また墨書土器の文字内容は十一町の建物跡（淳和院跡）との関連が窺える。さらに、黒褐色層の構築土である堤の下は、いわゆる「黒ボク土」の地山であり、西に広がる。以上のことから、堤は十一町（淳和院跡）から客土し、構築した可能性が高い。

5. まとめ

今回の調査の調査で検出した主な遺構は、西堀川小路の西堀川・西側溝・路面、一部石組の溝、堤と豊臣秀吉によって構築された安土桃山時代の御土居がある

(1) 遺構と調査地の変遷 (図20)

1区南壁断面とセクション断面の堆積状況の精査、各層の出土遺物などから、平安時代から安土桃山時代まで4期の遺構の変遷を考えることができる。

平安時代前期から中期前半 平安時代前期の西堀川小路には築地、西堀川、西側溝、路面があったであろうが、今回の調査で検出した前期の遺構は、堤の下層部で確認した西築地版築層(築地跡)と十一町(平安時代前期後半に淳和院が造営)の内溝(溝36)である。これらは、平安時代前期から中期に、築地は崩れ、内溝(溝36)は埋まっていったと考えられる。西堀川は度々洪水が起こる人工河川であり、洪水被害を修復しながら、当初の位置に維持されていたが、段々と埋まっていたようである。西側溝は、洪水のため当初より深くなり、岸が崩れていったようであるが、最下層部は当初の位置であると考えられる。路面も洪水で大半は浸食されたようであるが、部分的に残っている。路面上を横切る溝31は西から東に流れる暗渠と考えるが、西側溝が埋まって浅くなった時期に、西側溝から溢れる水を西堀川に流したものとする。

平安時代中期後半から後期 平安時代中期、西堀川と西側溝を完全に埋める洪水が発生し、築地は大きく破壊され、西堀川小路は全域が氾濫原の状態になったと考えられる。そして、その後もたびたび洪水が起こり、被害が発生したため、西側の十一町を保護するため、築地の位置に堤が構築されたのであろう。その時期は平安時代中期から後期の間と考えられる。また堤は、三条と五条の西堀川小路では検出していない。調査地で堤が構築された理由は、四条二坊十三町(淳和院跡)の調査(調査番号1)で平安時代後期の建物跡などが確認されていることから、調査地西側を洪水から守るため堤が築かれたと考えられる。堤(堤20)が構築された後は、洪水が少なくとも3回発生して堆積が繰り返されるが、その間に硬化面が3面前後確認できることから、平水時はならされ、道としても利用されたとと思われる。

鎌倉時代から室町時代 堤は構築後も洪水で損傷し、修復がなされる。堤によって西堀川の河川は天井川となり、室町時代の終わりには堤の高さに近い厚さ約1mの河川堆積層を形成する。

安土桃山時代から江戸時代 安土桃山時代に入ると、調査地西側に南北方向の堀を掘って、河川堆積層と南北方向の堤を利用し、御土居の土塁が築かれ、近代に至る。¹⁾

(2) 西堀川小路について (表4)

西堀川小路については、本調査の南北で数次の調査が行われている。主な調査の成果は、右京二条二坊調査では、西側溝は幅3.3~5.5m、西側路面は幅4.0~5.5m、西堀川は幅6m前後である。推定東築地心から西堀川心は、約12mであり、埋没は平安時代中期ごろである。右京三条二坊調査

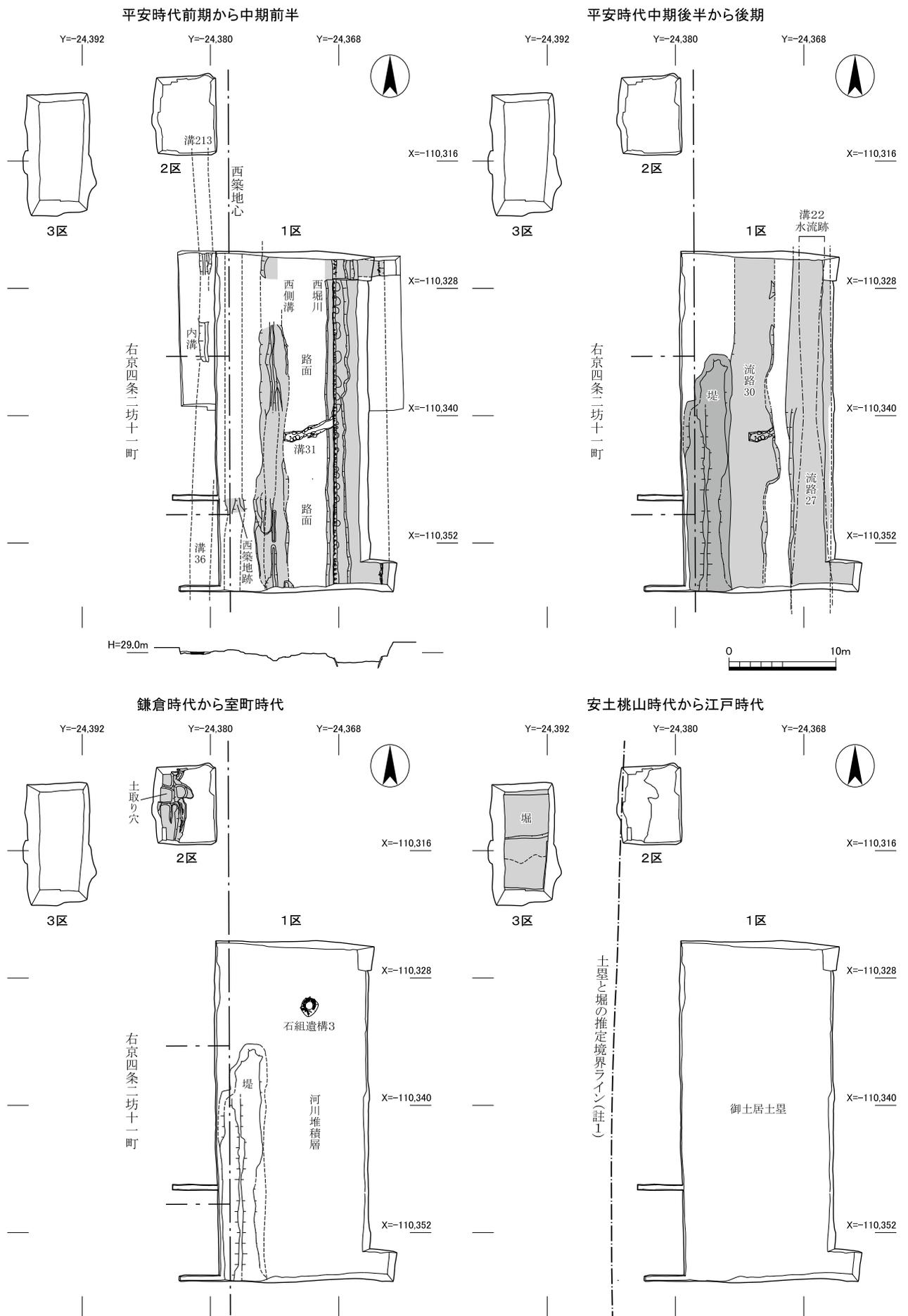


図20 遺構変遷図 (1 : 500)

表4 西堀川小路既往調査成果一覧表

調査地点 (平安京右京)	西築地	西側溝	西側 路面	西堀川 (護岸杭列 の東西幅)	東側 路面	東側溝	東築地	その他
二条二坊十一町・ 西堀川小路跡	—	幅3.3 ～5.5m	幅4.0 ～5.5m	幅6m前後	幅4.2m 以上	—	—	推定西築地心～西堀川 心間約12m。西堀川埋 没は平安時代中期。
三条二坊十町・ 西堀川小路跡	—	幅1.0m 以上	幅4.0 ～4.3m	幅6m前後	幅2.1m 以上	—	—	推定西築地心～西堀川 心間11.5～12m。西堀 川廃絶は10世紀後半。
五条二坊五町・ 西堀川小路跡	—	—	—	幅6m前後	幅約 5.7m	幅1.8 ～2.1m	側溝～ 内溝間 約1.2m	東築地心～西堀川心間 約12m。西堀川廃絶は 10世紀後半頃。
六条二坊六・十一町 ・西堀川小路跡	—	—	—	東杭列のみ	幅約 6m	幅約 2m	南北 柱穴列 検出	西堀川は10世紀初頭に 流れが止まる。

では、西側溝は幅1m以上、西側路面は幅4.0～4.3m、西堀川は幅6m前後であり、埋没は10世紀後半である。右京五条二坊調査では、東側溝は1.8～2.1m、東側路面は約5.7m、西堀川は幅6m前後であり、当初の西堀川の埋没は10世紀後半頃、全体の埋没は12世紀前半頃である。また東築地を検出しており、東築地心から西堀川杭列心までは約12mである。右京六条二坊調査では、東側溝は幅約2m、東側路面は約6m、西堀川は幅約14～16mであり、10世紀初頭に流れが止まり、全体の埋没は12世紀代である。

今回の調査では、西堀川の埋没は平安時代中期中頃であり、西側溝の幅1.5～3.1m、西堀川の幅は約6m、護岸杭列の東西幅は約4.5mである。また推定西築地心から西堀川心は約12mである。西堀川の幅が約6m（2丈）、西堀川小路幅は約24m（8丈）となり、これらの調査成果は、今までの成果におさまる。

以上の成果から、西堀川は二条から五条の間は杭列が良好に遺存し、西堀川の埋没は平安時代中期であり、後期には西堀川小路全体が埋没する。調査区南端の東拡張部は、西堀川を埋没させた洪水層が厚く堆積し、後世の洪水層がほとんど検出されないことから、地形的に標高の高い西堀川小路東側に遺構が存在する可能性は高い。

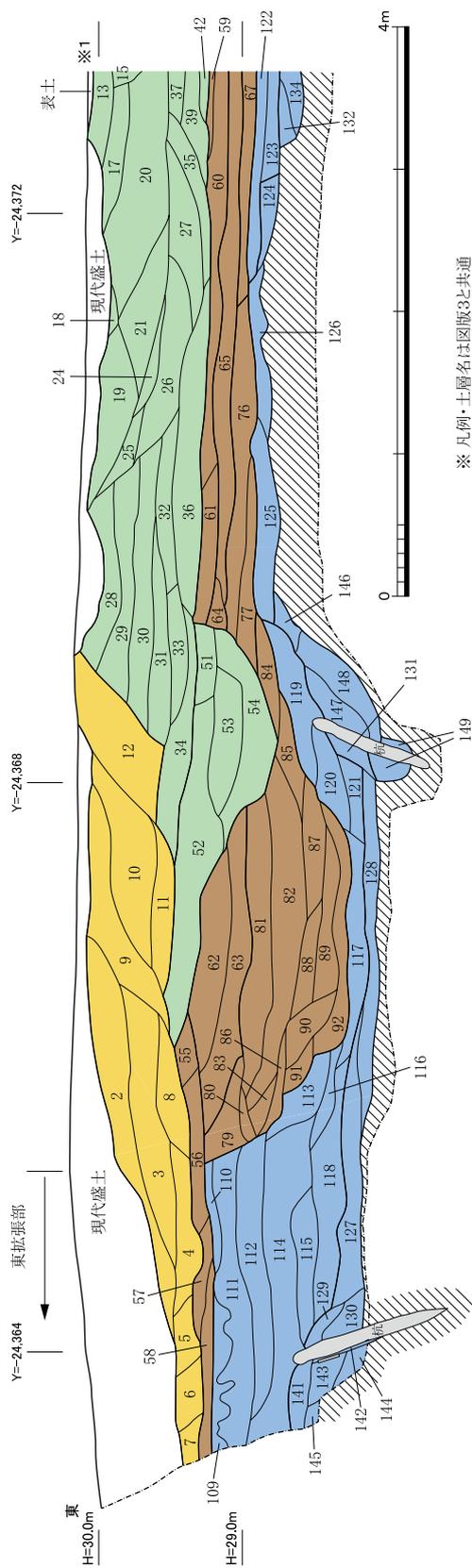
註

- 1) 土塁と堀の推定境界ラインは、鈴木久史「平安京右京四条二坊十一町跡・壬生遺跡跡・御土居跡(13H408)」『京都市内遺跡詳細財分布調査報告 平成26年度』京都市文化市民局文化財保護課2015年の図版を元にした。

圖 版



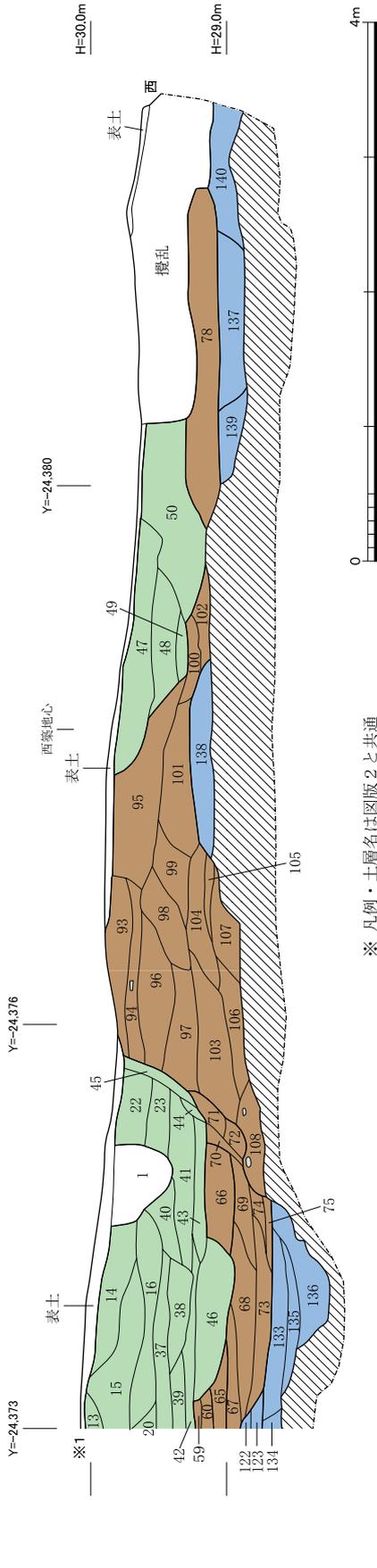
1区南壁断面オルソ写真(1:50)



※ 凡例・土層名は図版3と共通

- | | | | |
|---|---|--|---|
| <p>1 10YR4/6褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫少量</p> <p>2 10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫少量</p> <p>3 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫中量</p> <p>4 2.5Y5/2暗灰黄色砂泥 混φ0.5~4cmの礫中量、炭少量</p> <p>5 2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥 混φ0.5~4cmの礫中量、炭少量</p> <p>6 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫中量、炭少量</p> <p>7 2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫中量</p> <p>8 10YR5/2灰黄褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫中量</p> <p>9 10YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫少量</p> <p>10 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫中量</p> <p>11 10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫少量</p> <p>12 10YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫中量</p> <p>13 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫中量</p> <p>14 10YR4/6褐色砂泥 混φ0.5~12cmの礫中量</p> <p>15 10YR3/4暗褐色砂泥 混φ0.5~15cmの礫中量</p> <p>16 10YR3/4暗褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫中量</p> <p>17 10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~15cmの礫中量</p> <p>18 10YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫中量、土師器片少量</p> <p>19 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥+10YR5/6黄褐色粗砂 混φ0.5~5cmの礫中量</p> <p>20 10YR4/6褐色砂泥+10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~20cmの礫中量</p> <p>21 10YR3/4暗褐色砂泥+10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫中量</p> <p>22 10YR3/4暗褐色砂泥</p> <p>23 10YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫中量</p> <p>24 10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~6cmの礫中量</p> <p>25 10YR4/6褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫中量</p> <p>26 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~6cmの礫中量</p> <p>27 10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~6cmの礫中量</p> | <p>28 10YR4/4褐色細砂 混φ0.5~5cmの礫中量</p> <p>29 10YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫中量</p> <p>30 10YR3/2黒褐色砂泥 混φ0.5~12cmの礫中量</p> <p>31 10YR2/2黒褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫中量</p> <p>32 10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~4cmの礫中量</p> <p>33 2.5Y4/6オリーブ褐色細砂</p> <p>34 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 混φ0.5~7cmの礫中量</p> <p>35 2.5Y5/4黄褐色砂泥 混φ0.5~15cmの礫中量</p> <p>36 10YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~15cmの礫中量</p> <p>37 10YR4/6褐色砂泥+2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫中量</p> <p>38 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~6cmの礫中量</p> <p>39 10YR5/6黄褐色砂泥 混φ0.5~12cmの礫少量</p> <p>40 10YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~7cmの礫少量</p> <p>41 10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫中量</p> <p>42 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫中量</p> <p>43 10YR4/6褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫中量</p> <p>44 10YR2/2黒褐色砂泥</p> <p>45 10YR4/6褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫中量</p> <p>46 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫中量</p> <p>47 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫、土師器片少量</p> <p>48 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~2cmの礫少量</p> <p>49 10YR4/2灰黄褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫少量、炭・瓦片少量</p> <p>50 10YR5/2灰黄褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫少量</p> <p>51 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 混φ0.5~8cmの礫中量</p> <p>52 10YR4/2灰黄褐色砂泥 混φ0.5~7cmの礫中量</p> <p>53 7.5YR4/3褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫中量</p> <p>54 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫中量</p> | <p>55 10YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫少量</p> <p>56 10YR5/2灰黄褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫中量</p> <p>57 10YR5/2灰黄褐色砂泥 混φ0.5~4cmの礫中量</p> <p>58 2.5Y5/3黄褐色細砂</p> <p>59 10YR3/4暗褐色砂泥 混φ0.5~15cmの礫中量</p> <p>60 10YR4/3にぶい黄褐色シルト+10YR5/4にぶい黄褐色細砂</p> <p>61 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~15cmの礫中量</p> <p>62 10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫中量</p> <p>63 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~6cmの礫中量</p> <p>64 10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫中量</p> <p>65 7.5YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫中量</p> <p>66 10YR4/4褐色砂泥+10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~12cmの礫中量</p> <p>67 7.5YR4/3褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫中量</p> <p>68 7.5YR4/3褐色砂泥 混φ0.5~4cmの礫中量</p> <p>69 10YR4/2灰黄褐色砂泥 混φ0.5~2cmの礫中量</p> <p>70 2.5Y5/4黄褐色細砂 混φ0.5~3cmの礫中量</p> <p>71 10YR3/2黒褐色砂泥 混φ0.5~4cmの礫中量</p> <p>72 10YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~2cmの礫中量</p> <p>73 10YR4/2灰黄褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫中量</p> <p>74 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫中量</p> <p>75 10YR3/2黒褐色砂泥 混φ0.5~6cmの礫中量</p> <p>76 7.5YR4/3褐色砂泥 混φ0.5~15cmの礫中量</p> <p>77 7.5YR4/3暗褐色砂泥 混φ0.5~15cmの礫中量</p> <p>78 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫・土師器片・炭・瓦片少量</p> | <p>河川堆積層</p> <p>河川堆積層</p> <p>中世整地層</p> <p>河川堆積層</p> |
|---|---|--|---|

1 区南壁断面図1 (1:50)

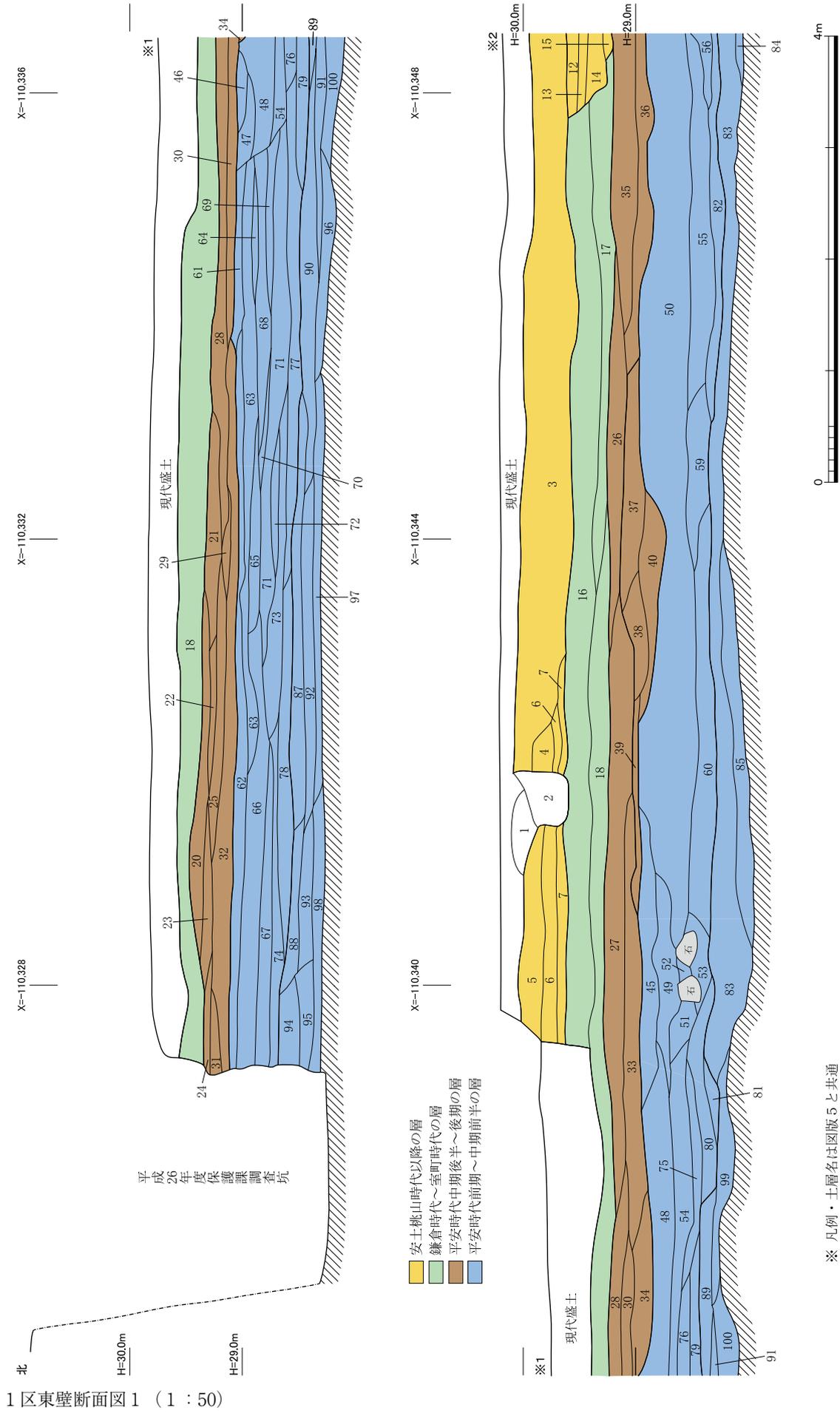


1区南壁断面図2 (1:50)

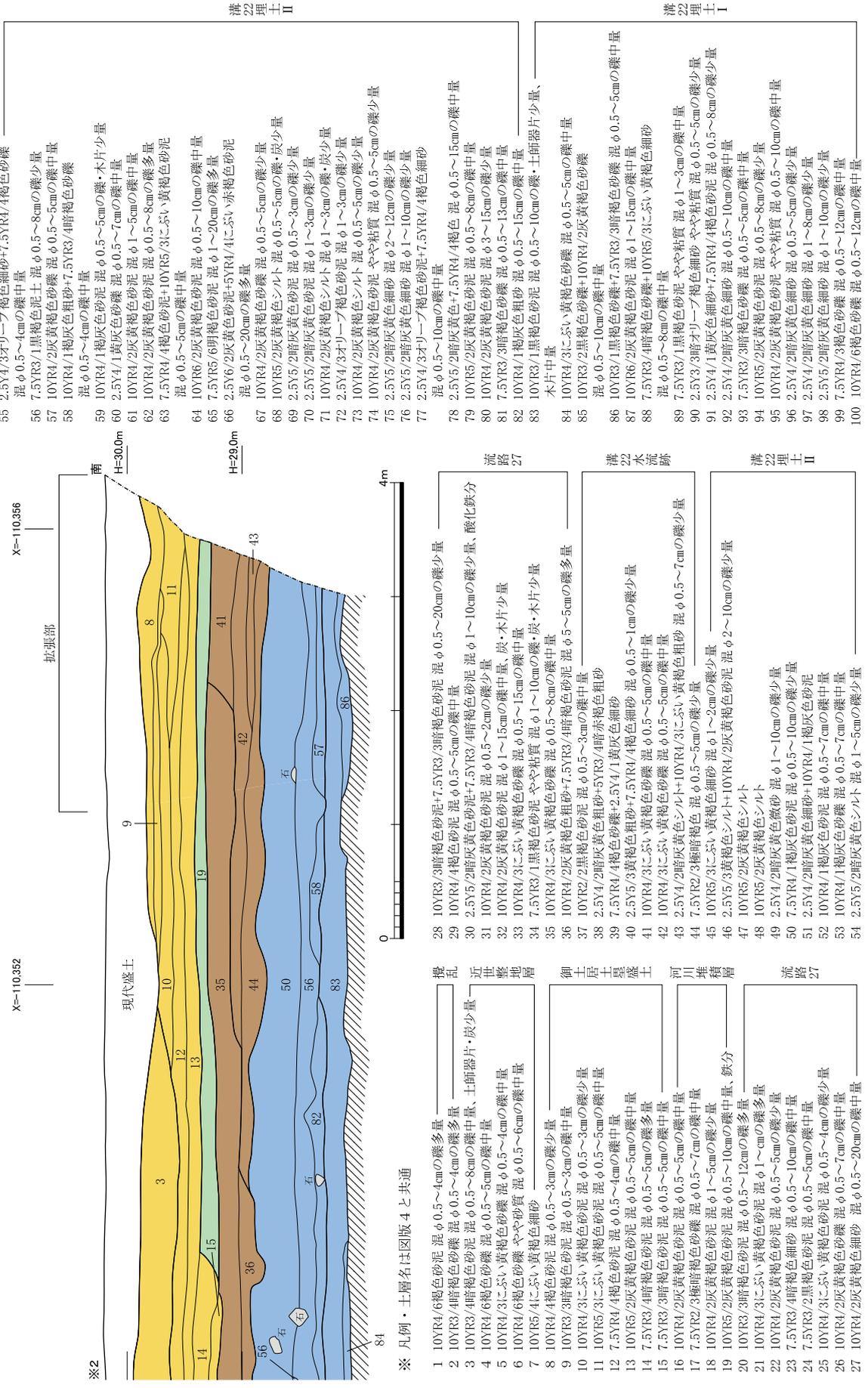
- | | | |
|--|--|---|
| <p>79 10YR4/3にぶい、黄褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>80 10YR4/3にぶい、黄褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>81 10YR4/2暗灰黄色砂礫混、ϕ0.5~15cmの礫中量</p> <p>82 2.5Y4/2暗灰黄色砂礫混、ϕ0.5~8cmの礫中量</p> <p>83 2.5Y4/2暗灰黄色シルト+10YR4/3にぶい、黄褐色粗砂混、ϕ0.5~7cmの礫少量</p> <p>84 7.5YR4/3褐色砂礫混、ϕ0.5~4cmの礫中量</p> <p>85 10YR4/3にぶい、黄褐色砂礫混、ϕ0.5~10cmの礫中量</p> <p>86 7.5YR2/3極暗褐色混、ϕ0.5~5cmの礫少量</p> <p>87 10YR2/2黒褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>88 2.5Y5/2暗灰黄色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>89 2.5Y4/2暗灰黄色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>90 2.5Y4/2暗灰黄色細砂混、ϕ0.5~5cmの礫多量</p> <p>91 2.5Y4/2暗灰黄色細砂混、ϕ0.5~3cmの礫少量</p> <p>92 2.5Y4/4オリーブ褐色砂礫混、ϕ0.5~4cmの礫中量</p> <p>93 2.5Y6/4にぶい、黄色微砂灰少量</p> <p>94 10YR3/3暗褐色砂礫混、ϕ0.5~3cmの礫・瓦片少量</p> <p>95 10YR3/2黒褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫少量・瓦片少量、土師器片中量</p> <p>96 10YR2/2黒褐色砂礫+10YR3/3暗褐色砂礫泥+プロック混、ϕ0.5~5cmの礫少量</p> <p>97 10YR2/3黒褐色砂礫混、ϕ0.5~4cmの礫少量</p> <p>98 10YR3/2黒褐色砂礫混、ϕ0.5~2cmの礫中量、土師器片少量</p> <p>99 10YR2/3黒褐色砂礫混、ϕ0.5~3cmの礫中量、土師器片・瓦片少量</p> <p>100 10YR4/2暗灰黄色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫少量</p> <p>101 10YR3/4黒褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫・土師器片少量</p> <p>102 10YR2/2黒褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫少量</p> <p>103 10YR2/2黒褐色砂礫混、ϕ0.5~8cmの礫・土師器片・瓦片少量</p> <p>104 10YR2/3黒褐色砂礫+2.5Y4/1黄灰色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫・土師器片少量</p> <p>105 10YR5/6黄褐色細砂</p> <p>106 7.5YR2/2黒褐色砂礫混、ϕ0.5~4cmの礫少量、鉄片</p> <p>107 10YR3/4黒褐色砂礫混、ϕ0.5~1cmの礫・土師器片・木片少量</p> <p>108 10YR2/2黒褐色泥土混、ϕ0.5~2cmの礫・瓦片少量</p> | <p>109 2.5Y4/3オリーブ褐色粗砂</p> <p>110 2.5Y4/2暗灰黄色粗砂混、ϕ0.5~4cmの礫少量</p> <p>111 10YR3/1黒褐色砂礫</p> <p>112 10YR3/1黒褐色砂礫+7.5YR4/3褐色砂礫混、ϕ0.5~2cmの礫・土師器片・炭少量</p> <p>113 10YR3/1褐色砂礫混、ϕ0.5~10cmの礫少量</p> <p>114 2.5Y3/1黒褐色泥土混、ϕ0.5~5cmの礫少量</p> <p>115 2.5Y3/1黒褐色砂礫混、ϕ0.5~7cmの礫少量</p> <p>116 7.5YR3/1黒褐色泥土混、ϕ0.5~8cmの礫中量</p> <p>117 10YR4/3にぶい、黄褐色砂礫混、ϕ0.5~7cmの礫中量</p> <p>118 10YR4/2暗灰黄色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>119 10YR4/2暗灰黄色砂礫混、ϕ0.5~8cmの礫中量</p> <p>120 10YR4/3にぶい、黄褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>121 10YR3/3暗褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>122 2.5Y4/1黄灰色砂礫+10YR4/3にぶい、黄褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>123 7.5YR4/4褐色砂礫混、ϕ0.5~10cmの礫中量</p> <p>124 2.5Y4/4オリーブ褐色砂礫混、ϕ0.5~4cmの礫中量</p> <p>125 7.5YR4/3褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>126 2.5Y4/3オリーブ褐色砂礫混、ϕ0.5~4cmの礫中量</p> <p>127 10YR3/1黒褐色砂礫</p> <p>128 ϕ0.5~10cmの礫・土師器片少量、木片中量</p> <p>129 10YR2/2黒褐色砂礫+7.5YR3/3暗褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>130 2.5Y3/1黒褐色砂礫+2.5Y4/1黄灰色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>131 10YR3/2黒褐色砂礫混、ϕ0.5~7cmの礫中量</p> | <p>132 10YR2/1黒色泥土混、ϕ0.5~4cmの礫中量</p> <p>133 10YR3/1黒褐色砂礫混、ϕ0.5~7cmの礫中量</p> <p>134 10YR4/2暗灰黄色砂礫混、ϕ0.5~8cmの礫中量</p> <p>135 10YR4/4褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>136 10YR3/1黒褐色砂礫混、ϕ0.5~3cmの礫少量</p> <p>137 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫少量</p> <p>138 10YR2/2黒褐色砂礫</p> <p>139 10YR3/1黒褐色砂礫・瓦片少量、土師器片中量</p> <p>140 2.5Y3/1黒褐色砂礫混、ϕ0.5~3cmの礫少量</p> <p>141 10YR3/1黒褐色砂礫混、ϕ0.5~3cmの礫中量</p> <p>142 2.5Y3/1黒褐色砂礫混、ϕ0.5~3cmの礫中量</p> <p>143 2.5Y3/1黒褐色砂礫混、ϕ0.5~7cmの礫多量</p> <p>144 2.5Y2/1黒色泥土</p> <p>145 10YR1.7/1黒色泥土</p> <p>146 7.5YR2/3極暗褐色泥土混、ϕ0.5~2cmの礫中量</p> <p>147 10YR3/1黒褐色砂礫混、ϕ0.5~5cmの礫中量</p> <p>148 10YR2/1黒色泥土混、ϕ0.5~5cmの礫少量</p> <p>149 10YR2/2黒褐色泥土混、ϕ0.5~3cmの礫少量</p> |
|--|--|---|

※ 凡例・土層名は図版2と共通

図版 4 遺構



1区東壁断面図1 (1:50)



1 区東壁断面図2 (1 : 50)

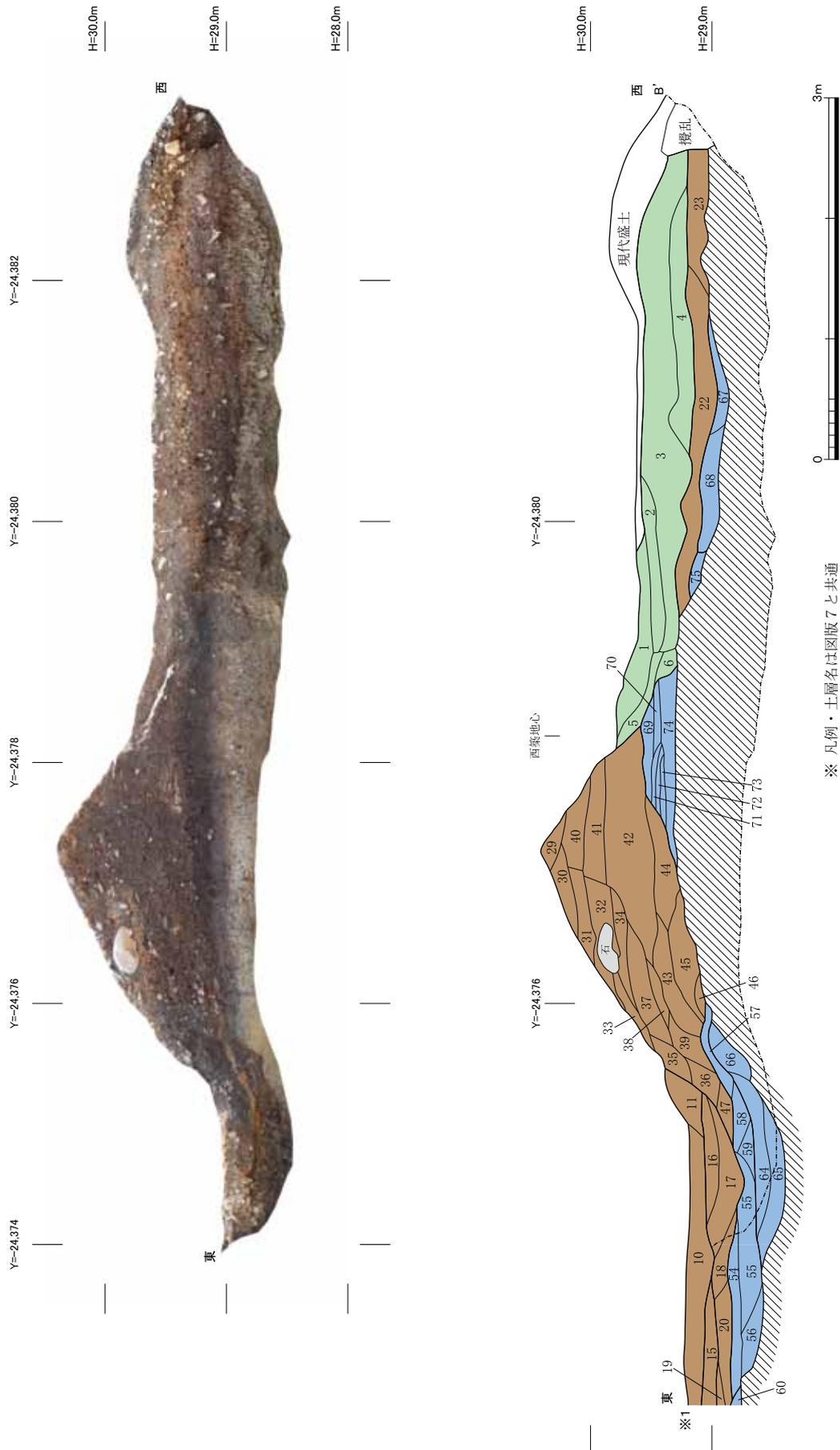
※ 凡例・土層名は図版4と共通

- 1 10YR4/6褐色砂泥 混φ0.5~4cmの礫少量
- 2 10YR3/4暗褐色砂泥 混φ0.5~4cmの礫少量
- 3 10YR3/4暗褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫少量
- 4 10YR4/6褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 5 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~4cmの礫少量
- 6 10YR4/6褐色砂泥 やや粘質 混φ0.5~6cmの礫少量
- 7 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫少量
- 8 10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫少量
- 9 10YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫少量
- 10 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 11 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~4cmの礫少量
- 12 7.5YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 13 10YR5/2暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 14 7.5YR3/4暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 15 7.5YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 16 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 17 7.5YR2/3暗褐色砂泥 混φ0.5~7cmの礫少量
- 18 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ1~5cmの礫少量
- 19 10YR5/2暗褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫少量
- 20 10YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~12cmの礫少量
- 21 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ1~cmの礫少量
- 22 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 23 7.5YR3/4暗褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫少量
- 24 7.5YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 25 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~4cmの礫少量
- 26 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ0.5~7cmの礫少量
- 27 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ0.5~20cmの礫少量

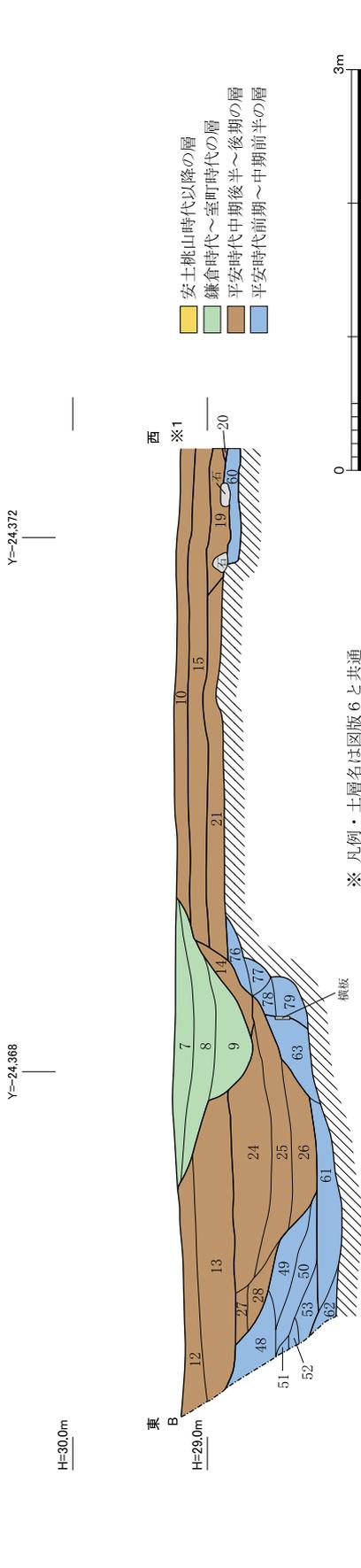
- 28 10YR3/3暗褐色砂泥+7.5YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~20cmの礫少量
- 29 10YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 30 2.5Y5/2暗褐色砂泥+7.5YR3/4暗褐色砂泥 混φ1~10cmの礫少量、酸化鉄分
- 31 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ0.5~2cmの礫少量
- 32 10YR4/4褐色砂泥 混φ1~15cmの礫少量、炭・木片少量
- 33 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 やや粘質 混φ1~10cmの礫少量
- 34 7.5YR3/1黒褐色砂泥 やや粘質 混φ0.5~5cmの礫少量
- 35 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫少量
- 36 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫少量
- 37 10YR2/2黒褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫少量
- 38 2.5Y4/2暗褐色砂泥+5YR3/4暗褐色砂泥 混φ0.5~1cmの礫少量
- 39 7.5YR4/4褐色砂泥+2.5Y4/1褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 40 2.5Y5/3黄褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 41 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 42 2.5Y4/2暗褐色砂泥+10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~7cmの礫少量
- 43 7.5YR2/3暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 44 10YR5/3黄褐色砂泥 混φ1~2cmの礫少量
- 45 10YR5/2暗褐色砂泥 混φ1~2cmの礫少量
- 46 2.5Y5/3黄褐色砂泥+10YR4/2暗褐色砂泥 混φ2~10cmの礫少量
- 47 10YR5/2暗褐色砂泥
- 48 10YR5/2暗褐色砂泥
- 49 2.5Y4/2暗褐色砂泥 混φ1~10cmの礫少量
- 50 7.5YR4/1褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫少量
- 51 2.5Y4/2暗褐色砂泥+10YR4/1褐色砂泥
- 52 10YR4/1褐色砂泥 混φ0.5~7cmの礫少量
- 53 10YR4/1褐色砂泥 混φ0.5~7cmの礫少量
- 54 2.5Y5/2暗褐色砂泥 混φ1~5cmの礫少量

- 55 2.5Y4/3オリーブ褐色細砂+7.5YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~4cmの礫少量
- 56 7.5YR3/1黒褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫少量
- 57 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 58 10YR4/1褐色粗砂+7.5YR3/4暗褐色砂泥 混φ0.5~4cmの礫少量
- 59 10YR4/1褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫・木片少量
- 60 2.5Y4/1黄褐色砂泥 混φ0.5~7cmの礫少量
- 61 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ1~5cmの礫少量
- 62 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫少量
- 63 7.5YR4/4褐色砂泥+10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 64 10YR6/2暗褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫少量
- 65 7.5YR5/6暗褐色砂泥 混φ1~20cmの礫少量
- 66 2.5Y6/2暗褐色砂泥+5YR4/4にぶい赤褐色砂泥 混φ0.5~20cmの礫少量
- 67 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 68 10YR5/2暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 69 2.5Y5/2暗褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫少量
- 70 2.5Y5/2暗褐色砂泥 混φ1~3cmの礫少量
- 71 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ1~3cmの礫少量
- 72 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 73 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 74 10YR4/2暗褐色砂泥 やや粘質 混φ0.5~5cmの礫少量
- 75 2.5Y5/2暗褐色砂泥 混φ2~12cmの礫少量
- 76 2.5Y5/2暗褐色砂泥 混φ1~10cmの礫少量
- 77 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥+7.5YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫少量
- 78 2.5Y5/2暗褐色砂泥+7.5YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~15cmの礫少量
- 79 10YR5/2暗褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫少量
- 80 10YR4/2暗褐色砂泥 混φ3~15cmの礫少量
- 81 7.5YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~13cmの礫少量
- 82 10YR4/1褐色粗砂 混φ0.5~15cmの礫少量
- 83 10YR3/1黒褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫・土師器片少量、木片少量
- 84 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 85 10YR3/2黒褐色砂泥+10YR4/2暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 86 10YR3/1黒褐色砂泥+7.5YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 87 10YR6/2暗褐色砂泥 混φ1~15cmの礫少量
- 88 7.5YR3/4暗褐色砂泥+10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫少量
- 89 7.5YR3/1黒褐色砂泥 やや粘質 混φ1~3cmの礫少量
- 90 2.5Y3/3暗褐色砂泥 やや粘質 混φ0.5~5cmの礫少量
- 91 2.5Y4/1黄褐色砂泥+7.5YR4/4褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫少量
- 92 2.5Y4/2暗褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫少量
- 93 7.5YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 94 10YR5/2暗褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫少量
- 95 10YR4/2暗褐色砂泥 やや粘質 混φ0.5~10cmの礫少量
- 96 2.5Y4/2暗褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 97 2.5Y4/2暗褐色砂泥 混φ1~8cmの礫少量
- 98 2.5Y5/2暗褐色砂泥 混φ1~10cmの礫少量
- 99 7.5YR4/3褐色砂泥 混φ0.5~12cmの礫少量
- 100 10YR4/6褐色砂泥 混φ0.5~12cmの礫少量

図版6
遺構



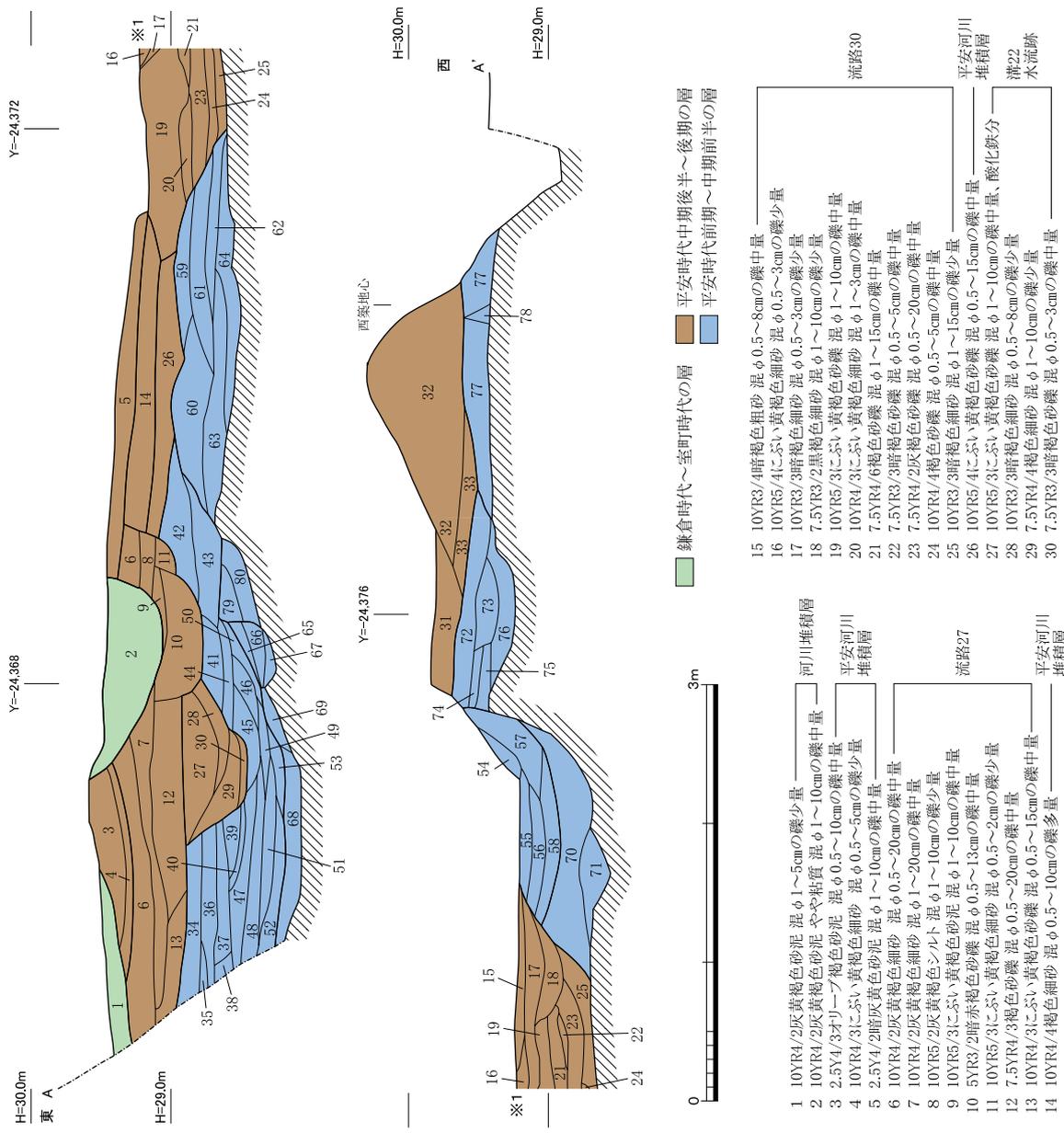
1区B-B' (X=-110,348セクション) 断面オルソ写真・断面図1 (1:50)



- | | | |
|--|---|--|
| <p>1 10YR4/3にぶい、黄褐色砂泥混φ0.5～3cmの礫・土師器片少量</p> <p>2 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥、やや砂質混φ0.5～5cmの礫中量、土師器片少量</p> <p>3 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥、やや砂質混φ0.5～5cmの礫中量、土師器片少量</p> <p>4 10YR3/2黒褐色砂泥混φ0.5～10cmの礫中量、土師器片少量</p> <p>5 2.5Y3/2黒褐色砂泥混φ0.5～5cmの礫中量、土師器片少量</p> <p>6 2.5Y3/2黒褐色砂泥、やや砂質混φ0.5～2cmの礫中量、土師器片少量</p> <p>7 10YR4/4褐色砂泥混φ0.5～4cmの礫少量</p> <p>8 7.5YR3/1黒褐色粘土混φ1～3cmの礫少量</p> <p>9 7.5YR3/2黒褐色粘土混φ1～3cmの礫少量</p> <p>10 10YR5/4にぶい、黄褐色粗砂+10YR2/1黒色粘土混φ0.5～4cmの礫少量</p> <p>11 10YR5/6黄褐色細砂</p> <p>12 10YR4/3にぶい、黄褐色砂泥、やや砂質混φ0.5～8cmの礫中量</p> <p>13 10YR4/2灰黄褐色粗砂+7.5YR3/4暗褐色砂泥混φ5～5cmの礫多量</p> <p>14 10YR1.7/1黒色砂礫+5YR3/2暗赤褐色砂礫混φ0.5～7cmの礫中量</p> <p>15 10YR4/3にぶい、黄褐色砂泥混φ0.5～6cmの礫中量</p> <p>16 10YR4/6褐色細砂混φ0.5～6cmの礫中量</p> <p>17 7.5YR4/4褐色砂礫混φ0.5～7cmの礫中量</p> <p>18 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥混φ0.5～4cmの礫</p> <p>19 2.5Y4/2暗灰色砂礫混φ0.5～15cmの礫中量</p> <p>20 10YR3/2黒褐色砂礫混φ0.5～7cmの礫中量</p> <p>21 10YR3/3暗褐色砂礫混φ0.5～4cmの礫中量</p> <p>22 2.5Y3/1黒褐色砂泥混φ0.5～3cm礫中量、土器片・炭少量</p> <p>23 10YR3/2黒褐色砂泥混φ0.5～5cmの礫中量</p> <p>24 10YR4/3にぶい、黄褐色砂泥混φ0.5～7cmの礫中量</p> <p>25 10YR4/2灰黄褐色砂礫混φ0.5～7cmの礫中量</p> <p>26 7.5YR3/4暗褐色砂礫混φ0.5～5cmの礫中量</p> <p>27 10YR4/4褐色細砂混φ0.5～5cmの礫中量</p> <p>28 10YR3/3暗褐色砂礫混φ0.5～7cmの礫中量</p> | <p>29 10YR3/3暗褐色砂泥混φ0.5～2cmの礫・土師器片少量</p> <p>30 10YR3/4暗褐色砂泥混φ0.5～5cmの礫中量、土師器片少量</p> <p>31 10YR3/2黒褐色砂泥混φ0.5～5cmの礫・土師器片少量</p> <p>32 10YR3/3暗褐色砂泥混φ0.5～5cmの礫中量、炭・瓦片少量</p> <p>33 10YR4/4褐色砂泥混φ0.5～5cmの礫中量、炭少量</p> <p>34 10YR5/3にぶい、黄褐色砂泥混φ0.5～4cmの礫・炭少量</p> <p>35 10YR4/1褐色砂泥混φ0.5～3cmの礫・炭少量</p> <p>36 10YR2/2黒褐色砂泥、やや粘質混φ0.5～4cmの礫中量</p> <p>37 10YR2/2黒褐色砂泥混φ0.5～5cmの礫・炭中量</p> <p>38 10YR5/4にぶい、黄褐色砂泥混φ0.5～2cmの礫少量</p> <p>39 10YR2/2黒褐色砂泥、やや粘質混φ0.5～3cmの礫少量</p> <p>40 10YR3/2黒褐色砂泥混φ0.5～2cmの礫・土師器片少量</p> <p>41 10YR3/2黒褐色砂泥混φ0.5～5cmの礫・土師器片・炭・瓦片少量</p> <p>42 10YR2/2黒褐色砂泥混φ0.5～5cmの礫・土師器片・炭・瓦片少量</p> <p>43 10YR3/2黒褐色砂泥、やや粘質混φ0.5～5cmの礫・土師器片少量</p> <p>44 10YR2/2黒褐色砂泥混φ0.5～5cmの礫中量、土師器片少量</p> <p>45 10YR2/3黒褐色砂泥混φ0.5～5cmの礫中量、土師器片少量</p> <p>46 10YR6/8暗黄褐色粗砂混φ0.5～3cmの礫少量</p> <p>47 10YR4/1褐色砂泥混φ0.5～4cmの礫中量</p> <p>48 7.5YR4/1褐色砂泥混φ0.5～10cmの礫少量</p> <p>49 10YR4/4褐色砂礫混φ0.5～4cmの礫中量</p> <p>50 5YR3/6暗赤褐色砂礫混φ0.5～8cmの礫中量</p> <p>51 2.5Y4/3オリーブ褐色細砂+7.5YR4/4褐色砂泥混φ0.5～4cmの礫中量</p> <p>52 7.5YR3/1黒褐色粘土混φ0.5～8cmの礫少量</p> <p>53 10YR4/1褐色粗砂混φ0.5～15cmの礫中量</p> | <p>54 7.5YR2/3暗褐色砂礫+7.5YR2/1黒色砂泥+黒色砂礫+黒色砂礫混φ0.5～10cmの礫中量</p> <p>55 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂礫混φ0.5～3cmの礫中量</p> <p>56 10YR4/3にぶい、黄褐色砂礫混φ0.5～5cmの礫中量</p> <p>57 10YR6/6明黄褐色粗砂+10YR2/1黒色粘土混φ0.5～4cmの礫少量</p> <p>58 2.5Y4/3オリーブ褐色細砂+7.5YR4/6褐色細砂</p> <p>59 10YR4/3にぶい、黄褐色砂礫混φ0.5～6cmの礫中量</p> <p>60 10YR3/2黒褐色砂礫混φ0.5～5cmの礫中量</p> <p>61 5YR3/1暗赤褐色砂礫混φ0.5～7cmの礫中量</p> <p>62 10YR3/1暗赤褐色砂礫</p> <p>63 10YR2/2黒褐色砂泥混φ0.5～7cmの礫中量</p> <p>64 2.5Y5/3暗褐色砂礫混φ0.5～4cmの礫中量</p> <p>65 2.5Y5/2暗灰色砂礫混φ0.5～6cmの礫中量</p> <p>66 10YR2/3黒褐色砂泥混φ0.5～2cmの礫・土師器片少量</p> <p>67 10YR2/3黒褐色砂泥、やや粘質混φ0.5～3cmの礫中量、土師器片・炭少量</p> <p>68 10YR2/3黒褐色砂泥混φ0.5～5cmの礫中量、炭少量</p> <p>69 10YR3/3暗褐色砂泥混φ0.5～3cmの礫中量、炭少量</p> <p>70 10YR2/2黒褐色砂泥+10YR4/3にぶい、黄褐色細砂混φ0.5～2cmの礫・土師器片・炭少量</p> <p>71 10YR2/2黒褐色砂泥混φ0.5～2cmの礫・土師器片少量</p> <p>72 10YR2/2黒褐色砂泥混φ0.5～3cmの礫・炭少量</p> <p>73 10YR2/2黒褐色砂泥混φ0.5～3cmの礫・炭少量</p> <p>74 10YR2/3黒褐色砂泥混φ0.5～1cmの礫・炭少量</p> <p>75 10YR2/1黒褐色砂泥混φ0.5～3cmの礫・炭少量</p> <p>76 10YR3/4暗褐色砂礫混φ0.5～7cmの礫中量</p> <p>77 10YR2/2暗褐色砂礫混φ0.5～3cmの礫中量</p> <p>78 10YR5/1褐色シルト混φ0.5～3cmの礫少量</p> <p>79 10YR2/2黒褐色砂泥混φ0.5～4cmの礫中量</p> |
|--|---|--|

1 区B-B' (X=-110,348セクション) 断面図2 (1:50)

- 31 2.5Y3/1黒褐色砂泥 混φ1~4cmの礫少量
- 32 2.5Y3/1~10YR3/2黒褐色砂泥 混φ0.5~3cm中量
- 33 7.5YR4/2灰褐色砂泥 混φ1~2cmの礫少量
- 34 10YR5/3にぶい黄褐色細砂 混φ1~10cmの礫少量
- 35 10YR5/2灰黄褐色シルト
- 36 2.5Y4/2暗灰黄色微砂 混φ1~10cmの礫少量
- 37 10YR5/2灰黄褐色細砂
- 38 2.5Y5/2暗灰黄色シルト 混φ1~5cmの礫少量
- 39 7.5YR4/1褐灰色細砂 混φ1~4cmの礫少量
- 40 2.5Y4/2暗灰黄色細砂+10YR2/2黒褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫少量
- 41 2.5Y4/2暗灰黄色細砂 混φ1~5cmの礫少量
- 42 10YR5/3にぶい黄褐色砂礫 混φ0.5~5cmの礫少量
- 43 10YR3/4暗褐色シルト 粘質 混φ1~10cmの礫少量
- 44 2.5Y5/2暗灰黄色シルト 混φ0.5~5cmの礫少量
- 45 2.5Y4/3オリーブ褐色細砂 混φ3~10cmの礫中量
- 46 10YR4/2灰黄褐色砂泥 混φ1~15cmの礫少量
- 47 2.5Y5/2暗灰黄色細砂 混φ2~12cmの礫少量
- 48 10YR4/2灰黄褐色砂泥 混φ3~15cmの礫少量
- 49 10YR3/1黒褐色砂泥 混φ0.5~15cmの礫中量
- 50 2.5Y4/2暗灰黄色細砂 混φ0.5~15cmの礫中量
- 51 2.5Y3/2黒褐色細砂 混φ1~20cmの礫中量
- 52 7.5YR3/3暗褐色砂礫 混φ0.5~13cmの礫中量
- 53 2.5Y4/1黄灰色細砂
- 54 2.5Y6/3にぶい黄灰色シルト
- 55 10YR6/3にぶい黄褐色シルト 混φ0.5~10cmの礫少量
- 56 10YR5/3にぶい黄褐色砂礫 混φ1~3cmの礫中量
- 57 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 粘質 混φ0.5~5cmの礫少量
- 58 2.5Y4/2暗灰黄色細砂 混φ3~10cmの礫中量
- 59 5Y6/2灰オリーブ色砂礫 混φ1~10cmの礫中量
- 60 10YR5/4にぶい黄褐色砂礫 混φ0.5~8cmの礫中量
- 61 10YR4/4褐色砂泥+10YR2/2黒褐色砂泥(シマ状になっている) 混φ0.5~7cmの礫中量
- 62 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥+10YR2/2黒褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫中量
- 63 10YR4/3にぶい黄褐色細砂+10YR2/2黒褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫中量
- 64 2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥 混φ1~5cmの礫少量
- 65 10YR4/2灰黄褐色粘土 混φ0.5の礫中量、木片少量
- 66 10YR4/2灰黄褐色砂泥 混φ0.5~5cmの礫中量、木片少量
- 67 10YR5/2暗灰黄色砂泥 やや粘質 混φ0.5~10cmの礫少量
- 68 7.5YR4/3褐色砂泥 混φ0.5~12cmの礫中量
- 69 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫少量
- 70 10YR3/3暗褐色細砂 混φ1~12cmの礫中量
- 71 10YR4/2灰黄褐色粘土 混φ1~5cmの礫中量
- 72 10YR3/2黒褐色砂泥 混φ0.5~8cmの礫・土器片少量
- 73 10YR4/2灰黄褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫・土器片少量
- 74 10YR4/4オリーブ褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫中量
- 75 10YR3/3暗褐色砂泥 混φ1~3cmの礫少量
- 76 2.5Y3/1黒褐色砂泥 やや粘質 混φ0.5~3cmの礫少量
- 77 2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥 混φ0.5~10cmの礫中量
- 78 10YR3/1黒褐色シルト 混土器片少量
- 79 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 やや粘質 混φ1~10cmの礫少量
- 80 10YR4/1褐色砂泥 混φ1~3cmの礫少量



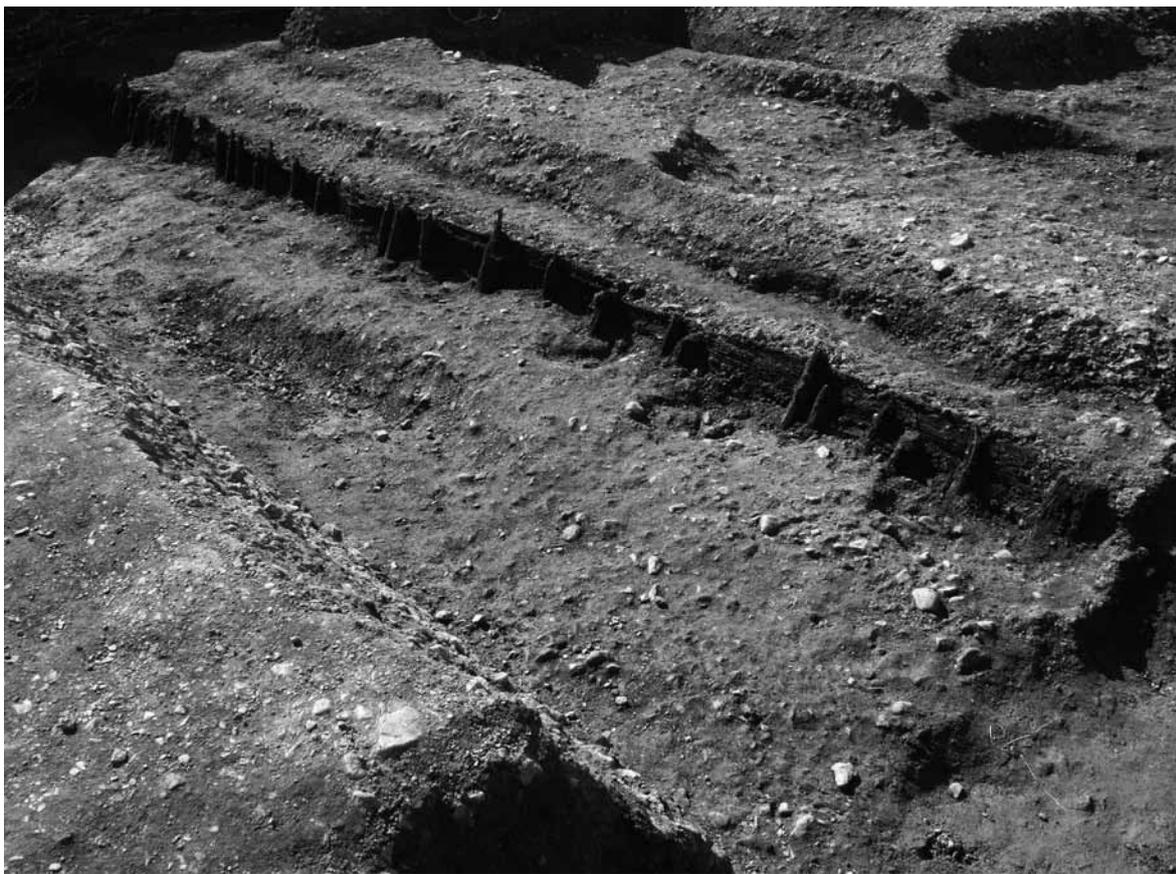
1区A-A' (中央セクション) 断面図 (1:50)



1 1区北半 全景（南から）



2 1区南半 全景（北から）



1 1区北半 溝22(西堀川) 杭列(北東から)



2 1区南半 溝22(西堀川) 杭列と路面(北東から)



1 1区南半 溝23 (西側溝) 下部 (北から)



2 1区南半 東拡張部 杭列 (北西から)



3 1区南半 溝31 (西南西から)



4 1区南半 堤20 (北から)



1 2区全景（北から）



2 3区全景（北から）



報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうしじょうにぼうじゅういっちょう・にしほりかわこうじあと、おどいあと							
書名	平安京右京四条二坊十一町・西堀川小路跡、御土居跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2015-1							
編著者名	布川豊治							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2015年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡 おどいあと 御土居跡	きょうとしなかがきょうく 京都市中京区 みぶふちだちょう 壬生淵田町8 他	26100	1 149	35度 00分 18秒	135度 43分 58秒	2015年1月 21日～2015 年4月30日	576㎡	共同住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡 御土居跡	都城跡 土塁跡	奈良時代 平安時代 鎌倉時代 ～室町時代 安土桃山時代	 西堀川小路路面・ 西側溝・西堀川、 築地跡、内溝、東 西溝、堤、流路 土取り穴群 御土居土塁・堀	瓦類 土師器、須恵器、緑釉 陶器、灰釉陶器、輸入 陶磁器、瓦類 土師器、須恵器、焼締 陶器、輸入陶磁器 土師器、施釉陶器、染 付磁器、木製品		平安時代前期から 中期の西堀川小路 路面・西側溝・西 堀川、築地跡、内 溝などを検出した。 平安時代中期から 後期の堤、流路な どを検出した。 安土桃山時代の御 土居の土塁・堀を 検出した。		

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015-1

平安京右京四条二坊十一町・
西堀川小路跡、御土居跡

発行日 2015年9月30日

編集行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住 所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印 刷 三星商事印刷株式会社

住 所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961